

旧華族家史料目錄 I

— 富小路家・岡部家・稻垣家・木越家史料目錄 —

本目録について

平成二九年(二〇一七)、学習院は創立一四〇年を迎える。明治一〇年(一八七七)華族子女のための教育機関として、華族会館により設立されたことが学習院の起源である。その来歴に因み、学習院大学史料館(以下「当館」とする)では、昭和六〇年度(一九八五)より、旧華族家に関する調査研究を行ってきた。その研究成果をすべて列挙することは紙幅の関係上行わないが、『旧華族家史料所在調査報告書』(一九九三)や『男爵物語』(二〇〇七)などを刊行し、各種展覧会も開催している。これらの調査研究を行うためには、その基礎として、史料蒐集及び史料整理と目録作成があることは言うまでもない。史料の購入予算を持たない当館では、大変幸いなことに一般社団法人霞会館、一般社団法人尚友俱樂部、一般社団法人昭和会館という旧華族家関係の諸団体より、史料の御寄贈、さらには助成金をいただき、調査研究を行うことが出来ている。近年では、寺内正毅・寿一関係資料の寄贈を受け、当館の『紀要』第二二号(二〇一五)で同資料に関する特集を掲載した。その成果を基に、今年度(二〇一六)からは千葉功研究員を研究代表者とした「近代日朝関係の基礎的研究―未刊行史料を中心に」及び長佐古美奈子が研究代表者である「近代皇室工芸作品フローシテムの研究―新収山階侯爵家・寺内伯爵家資料の検討―」の二件が科学研究費助成事業に採択された。

今号では、近年寄贈を受けた旧華族家史料の目録を公開する。それぞれの史料の詳しい来歴等については解題をお読みいただきたいが、岡部家・稲垣家・富小路家は旧子爵家、木越家は旧男爵家である。岡部家・稲垣家・富小路家史料については、尚友俱樂部よりの御紹介があり、当館への寄贈となった。

尚友俱樂部は、大日本帝国憲法下の貴族院における有力会派「研究会」(明治二四年(一八九二)発足)、およびその翌年に子爵の選挙母体として結成された「尚友会」を基とし、両会の親睦団体として昭和三年(一九二八)に設立された。戦後、貴族院の解散に伴って研究会・尚友会は政治的役割を終えたが、尚友俱樂部がその資産等を引き継ぎ、公益事業や学術団体へ

の援助などの活動を行われている。そうした活動の一環として、主に政治家の史料を翻刻した『尚友叢書』や『尚友ブックレット』といった史料集も刊行され、近現代史研究の貴重な資源を世に提供されている。その中でも特に、尚友俱樂部・長谷川愔編『貴族院・研究会写真集』(芙蓉書房出版、二〇一三)には、今回目録を公開する各家の人物がうつる写真も多数掲載されていることを付言しておきたい。

しかし、そうした政治的史料以外にも、学習院出身者が多い会員の方々が持ち寄られる史料には貴重なものも多くあることから、尚友俱樂部史料調査室の上田和子氏より御紹介を受け、当館で史料を受贈することとなった。稲垣家史料、富小路家史料がそれに該当する。岡部家史料については、尚友俱樂部の会員である岡部長忠氏と、以前より展示・講座等を通じ当館と深い関わりがあったことから、学習院に関わるものに関しては当館に御寄贈いただくこととなった。

木越家史料は、霞会館からの御紹介である。霞会館は華族会館を前身とする旧華族家の親睦団体であり、様々な旧華族家に関する事柄や日本の伝統文化の伝承に関わる事業などに助成を行われている。当館に対してこれまで「旧華族家に関する調査研究」をはじめとする諸事業のほか、平成二七年度から平成三九年度までの一三年間は、当館開催の展覧会に対して助成をいただいている。助成のみならず、会員の方々からは旧華族家に関わる史料の調査研究に多大な御協力を頂戴している。当館の調査研究及び公開事業が、曲がりなりにも滞りなく進んでいるのは、霞会館からのご支援の賜物であるといっても過言ではないだろう。

史料の旧蔵者の皆様をはじめとして、今回の目録公開に関してご尽力いただいた方々に深く感謝の意を表したい。また、これらの目録公開を通じて、近現代史研究に寄与出来れば幸甚である。

なお、目録採取・編成および解題執筆は、富小路家史料については田中潤が、岡部家史料については西山直志が、稲垣家史料については芳澤直之が、木越家史料については岡田茂弘(元当館客員研究員)と西山直志が行い、全体の調整と統一を長佐古美奈子と西山直志が行った。

(長佐古美奈子・西山直志)

凡例

- 一、本目録は、学習院大学史料館が所蔵する、富小路家史料（台帳番号一八九―二七）、岡部家史料（同上―一八九―三〇）、稲垣家史料（同上―一八九―三四）、木越家史料（同上―一八九―三八）の目録である。掲載順序は、寄贈を受けた順に付与される台帳番号によった。
なお、当館の台帳番号一八九番は、小規模史料群に付せられている。
- 一、目録は史料番号順に配列した。これは、いずれの史料群もある程度系統だった原秩序が認められ、そのまとまりを提示した方が、閲覧の便に供すると考えたためである。
だが、富小路家史料については点数が比較的多いため、時期によって①近世（明治以前）、②近代（明治以降～昭和戦前）、③現代（昭和戦後以降）の区分を設けた上で、史料番号順に配列した。
- 一、データを採取した項目は、「史料番号」・「表題」・「年月日」・「西暦」・「作成・差出」・「宛名・受取」・「形態・記述法」・「数量」・「備考」で統一した。
- 一、閲覧等の場合は、「史料番号」より請求していただきたい。
- 一、旧字は適宜常用の字に改めた。
- 一、目録の採録者等は、「本目録について」の末尾に記載した通りである。

富小路家史料目録 (台帳番号189-27)

解題

田中 潤

本史料群は、堂上公家旧子爵富小路家に伝来し、同家の縁戚にあたる日野純男氏より、平成二十七年(二〇一五)一月に当館へ寄贈されたものである。富小路家は、九条家の諸大夫富小路俊通(一五一三)が、一条家諸大夫源康俊の猶子として藤原姓となり、二条家庶流を称して従三位に昇叙され、一家を起した。俊通以降、資直―氏直―種直―秀直―頼直(持明院基久子)―永貞―貞維―重直(貞維の叔父利貞の子)―総直―良直―貞直(卜部宣條子)―貞随―政直(貞随弟)―永忠―敬直―隆直と継承された。敬直(一八四二―一八九二)の時に子爵を授けられ、隆直(一八八五―一九五七)は、貴族院議員となり研究会の一員として活躍した。資直・秀直が位階を従三位に進めたことから、同家は堂上に列せられることとなり、以後歴代当主の多くは三位に昇り、総直・政直は正二位、良直は従二位に叙されている。江戸時代の家格は半家(旧家)で、幕府からは二百石を給された。近世には歌俳詩文を家職としており、実質的家祖である俊通は、文明五年(一四七三)「按察使親長卿家歌合・明応元年(一四九二)「竹内僧正歌合」などに参加していることが確認される。また俊通は、明応五年(一四九六)に、「花鳥余情」・「河海抄」・「紫明抄」など源氏物語の注釈書を集めた「三源一覽」を著すなど文事に通じており、その子資直もまた和歌での足跡が伝えられている。このほか議奏を務めた永貞の日記が知られている。

今回目録を公開する富小路家史料は、同家に関するまとまった史料群として貴重である。近世中期から戦後現代に及ぶ内容を含んでいるため、便

宜的に近世・近代・現代の区分をもつて配列し、閲覧の便に供した。

近世分には、堂上公家としての役儀遂行に関連し、東山天皇元服時の次第書など、朝儀に関わる文書が散見される。また、まとまった形で伝えられている近世文書群には、光格天皇の後宮で治宮・欽宮の二人の皇女を儲けた小侍従局明子(貞直女)の、懐妊・出産・養育に関わる諸事を書き留めた記録や、先例として書写された「文化十二年乙亥七月督典侍殿懐妊已来金銀出入高野家雜記」、皇女の成長儀礼の折などに進められたと考えられる献立書などが残されている。このほか、幕府奥向きとの文通と考えられる書状群が確認される(これらの書状については、本目録では内容の記載を省いた。後稿で翻刻を紹介する予定である)。そして、同家の家職との関わりの上で、和歌詠草の類が多数含まれることが注目される。中でも近世後期の当主貞直の自筆短冊を多数貼り込んだ手鑑や、幕末から明治中期の当主で敲雲と号した敬直が、東久世通禧・西四辻公業・堀河康隆らと行った和歌の点取や詠草などの記録は、同家における歌学への取り組みや、公家の交流を見ていく上で注目される。

近代分にも和歌に関する史料が多数含まれており、近世分に見られた点取の他、賜題への詠進歌や詠草が、天皇の御料を示す喜春の文字が版心に刷られた野紙や、宮内省の野紙に書かれた形で伝えられている。この他、富小路家の家族・一族(相楽男爵家)・家政運営に関わる文書・慶弔関係の史料が含まれている。近代分の中で注目されるのは、明治天皇・大正天皇の写真であり、下賜時のものと考えられる檀紙に包まれた状態で伝えられている。

現代分は、富小路禎子(一九二六―二〇〇二)関係の史料である。禎

子は、富小路子爵家として最後の当主隆直の娘で、女子学習院で学んだ。戦後は、貴族院議員であった父の失職などにより、自ら富小路家を支える一方、歌人植松寿樹（一八九〇—一九六四）に学んで、歌人として活躍した。一九九二年には「泥眼」で第二十八回短歌研究賞、一九九七年には「不穩の華」で第三十一回迢空賞を受賞、二〇〇三年には『富小路禎子全歌集』が角川書店から刊行されている。現代分には、禎子が歌と共に打ち込んだ観世流⁸の免状がまとまって残されているほか、父隆直逝去に際して諸方から送られた弔意文が含まれている。

註

- (1) 平山敏治郎「堂上格富小路家成立の顛末」（『日本常民文化紀要』八輯二、一九八二年）。川田貞夫「富小路家」（『国史大辞典』第一〇巻、吉川弘文館、一九八九年）。
- (2) 相原宏美「山科言継の質問状…『言継卿記紙背文書』に見る富小路資直の和歌指導」（『古代中世国文学』二〇、二〇〇四年）。
- (3) 井上宗雄「三源一覽」の著者富小路俊通とその子資直と」（『立教大学日本文学』一七、一九六六年）。宮川葉子「三條西実隆と古典学」風間書房、一九九五年）。松本大「富小路俊通『三源一覽』の源氏学…『愚存』注記からみる中世源氏学の一様相」（『日本文学』六十四（九）、二〇一五年）。
- (4) 東京大学史料編纂所蔵写本。
- (5) 盛田帝子「富小路貞直と転換期歌壇」（『文学』七（二）、二〇〇六年）。同「歌道宗匠家と富小路貞直・千種有功」（『国語と国文学』七（二）、二〇一一年）。
- (6) 富小路敬直二男の富道が、明治二年（一八六九）堂上格に列せられて相楽と称し、明治一七年に富道嗣（敬直四男）の綱直に、男爵が授けられた。
- (7) 高橋順子『富小路禎子』（新潮社、二〇〇一年。今井恵子『富小路禎子の歌』雁書館、二〇〇二年）。「特別企画 富小路禎子追悼（含略年譜）」（『短歌研究』五十九（三）、二〇〇二年）。

(8) 富小路禎子「中世の演能家―世阿弥―」（『短歌』九、一九六二年）。

富小路家史料目録

①近世

表題	年月日	西暦	作成・差出↓宛名・受取	形態・記述法	数量	備考	史料番号
富小路家傳	(近世後期)			横冊変形	1冊	貞隨の項に朱筆・同付箋あり。付箋に「寛政十年十月十八日附于頭右中辨注進之、今度寛政三年已来諸家傳被改之故也」とあり。記載下限は文政七年正月十二日。虫損	11
(日課漢詩草稿)	六月一三日〜七月八日			豎冊崩	1冊		45
聚勝園記(仮名・真名共写本)	文政一〇年一月(仮名本)・天保四年癸巳春季中瀬(真名本)	一八二七・一八三三	水月庵の翁(真名)・江都佐藤担(真名)	豎冊	1冊	近代の写本か。	46
日記案	従文久三亥一月一日〜二月二九日		敲雲(富小路敬直入道)	豎冊	1冊		47
日記	慶應三丁卯年十一月	一八六七	清盧(カ)	豎冊崩	1冊		48
元服次第	(近世後期)		富小路殿目附方榊原内蔵 <small>㊿</small> ↓従桑名駅大津駅迄宿々問屋年寄肝煎中	折紙・包紙紙繕で接合	1通		75
覺(来二十二日桑名駅より京都表え御先着小笠原蔵人若党一人下部一人差添被差登につき書面の人足無滞差し出すべき旨)	一二月二三日		みを(爪印) ↓富小路様御役人中様	状・包紙とも	1通	並河丹波介は帝室技芸員並河靖之の祖父か。包紙に「文政七年五月〇〇〇〇〇〇〇〇ミを病身二付御暇被下」	80
親類書(並河みを・父伏見宮御内 並河丹波介ほか親類書)	文政七年五月	一八二四		状・包紙とも	1通		80
(書状)			玉野 ↓お常さま 参 人々	折紙	1通		96
(書状)			出雲 八重嶋 磯浦 ↓玉野さま 人々 <small>カ</small>	折紙	1通		97
(書状)			樹嚮院 ↓梅垣殿 人々 申給へ	折紙	1通		98
(書状)			梅垣 ↓定町様 人々 <small>カ</small> 御返事	折紙	1通		99
(書状)			知足院 ↓富小路侍従さま 人々	続紙	1通		100
(書状)			さた子より ↓おかつさま 御請	続紙	1通		101
(書状)			さた子より ↓おかつさま 御申入	続紙	1通		102
(書状)				続紙	1通		103
(富小路家家譜)				帖	1冊		104
送り状	一〇月二三日〜十一月二四日		菊屋ほか ↓富小路様 御役所	綴	1綴		116
送り状	十一月二四日〜二月三日		↓富小路様 御役所	状・続紙	10通	二六の綴崩か。	117
春宮御元服次第(東山天皇元服時)	(貞享四年一月二三日)	一六八七		豎冊	1冊	奉書にて一括。	124-1
理髮要(加冠時)				折紙	1枚	奉書にて一括。	124-2
点取(秋色在萩・蚕・移菊・開初雁・普田天皇)	明治九年一〇月一四日	一八七六	十二点 執筆 堀河康隆	豎冊	1冊	朱筆あり。末尾に「十点 東久世通禱	127-1
点取五題(社頭花・古寺花・朝花・夕花・山家花)				豎冊(青片面一〇行罫紙)	1冊	朱筆あり。	127-2

表題	年月日	西暦	作成・差出↓宛名・受取	形態・記述法	数量	備考	史料番号
(詠草・朝郭公ほか)	—	—	—	縦冊崩(宮内省)「赤片面(三行罫紙)」	10枚	加筆修正・添削あり。	127-3
勅題(横詠草)	七月一三日	—	富小路敬直 三條西公允	横紙	3枚	重ねて一括。	127-4
川喜多先生点慶應二年詠艸	慶應二年	一八六六	敲雲	四つ半縦冊	1冊	主筆添削・下敷界紙あり。	127-5
詠藻	—	—	敲雲	縦冊	1冊	素紙短冊四枚の綴がはさみ込み。	127-6
慶應二年九月 詠艸	慶應二年九月	一八六六	敲雲	縦冊	1冊	朱筆あり。	127-7
慶應元年川喜多先生点 長歌 文詞	慶應元年	一八六五	敲雲	縦冊	1冊	朱筆あり。	128-1
慶應元年 舉樹園先生点 詠草	慶應元年	一八六五	敲雲	縦冊	1冊	朱筆あり。	128-2
慶應二年文詞・長歌 舉樹園先生点	慶應二年	一八六六	敲雲	縦冊	1冊	朱筆あり。	128-3
慶應元丑年 學樹園先生点 詠艸	慶應元年	一八六六	敲雲	縦冊	1冊	朱筆あり。	128-4
慶應二年 學樹園先生点 詠草	慶應二年	一八六六	敲雲	縦冊	1冊	朱筆あり。	128-5
樞園先生点 詠艸	—	—	敲雲	縦冊	1冊	朱筆あり。	128-6
樞園先生点千首之内 詠艸 慶應二年	慶應二年	一八六六	敲雲	縦冊	1冊	朱筆あり。	128-7
文詞 詠草	—	—	敲雲	縦冊	1冊	朱筆あり。	128-8
長歌 文詞	—	—	敲雲	縦冊	1冊	朱筆あり。	128-9
月次のふみ	—	—	賀茂季鷹	縦冊	1冊	朱筆あり。	132-1
夫婦のかたらひ	—	—	無名氏著	縦冊	1冊	朱筆あり。	132-2
続世継物語抜萃	—	—	—	横半帳	1冊	朱筆あり。	132-3
天明三稔詩稿	天明三年	一七八三	—	横半帳	1冊	朱筆あり。	132-4
堀河百首四度 從寛政六年重陽之日	寛政六年九月九日	一七九四	貞直	横半帳	1冊	朱筆あり。	132-5
督典侍之例并当家人用帳 御誕生二付金銀出入先例書(文化十二年乙亥七月督典侍殿御懐妊已来金銀出入高野家雜記)	文化一二年	一八一五	(持明院庶流・高野家)	横半帳	1冊	朱筆あり。	132-6
寛政七年正月(寛政七年正月廿七日東久世少将亭當座ほか)	寛政七年	一七九五	—	横半帳	1冊	朱筆あり。	132-7
応富小路貞直卿需九月六日七日両日詠畢廿番	—	—	—	縦冊	1冊	—	132-8
自歌合 恋十番 雜十番	—	—	—	縦冊	1冊	—	132-9
故治部卿君御集艸稿	—	—	—	縦冊	1冊	—	133-1
慶應三丁卯年日記	慶應三年一月一日〜一〇月一九日	一八六七	—	縦冊	1冊	—	133-2
柳露集	—	—	—	縦冊(「五車楼梓」[国史略]版芯銘黒片面九行罫紙)	1冊	—	133-3
十八年賜題伊藤祐命之点撰抜之詠	—	—	—	縦冊(青片面一三行罫紙)	1冊	—	133-4
詠藻	六月一三日	—	—	縦冊(赤片面一三行罫紙)	1冊	—	133-5
柳のみとり	—	—	—	縦冊(赤片面一三行罫紙)	1冊	—	133-6
柳のみとり	—	—	—	清盧	1冊	—	133-6

表題	年月日	西暦	作成・差出↓宛名・受取	形態・記述法	数量	備考	史料 番号
撰抜被仰付詠進之哥	—	—	清盧	豎冊〔山近〕 青片面(〇行) 罌紙	1冊	—	133-7
即事匿名(九点 宗昭上 十点宗明)	元治元年二月一三日	一八六四	清蔭	豎冊	1冊	—	133-8
舉樹園先生點元治二年三月廿五日百首	元治二年三月廿五日	一八六五	清蔭	豎冊	1冊	—	133-9
詠草	明治四辛未年正月元日	一八七一	潤屋	豎冊	1冊	—	133-10
十二月晦日夕御膳献立	十二月三〇日	—	—	切紙	1枚	—	133-11
十月朔日夕御膳献立	一〇月一日	—	—	切紙	1枚	—	133-12
夕御膳献立	—	—	—	折紙	1枚	—	133-13
十二月十七日夕御膳献立	十二月十七日	—	—	折紙	1枚	—	133-14
六月晦日夕御膳	六月一日	—	—	折紙	1枚	—	133-15
十一月朔日欽宮様夕御膳	十一月一日	—	—	折紙	1枚	—	133-16
十二月廿九日 夕御膳献立	十二月二十九日	—	—	折紙	1枚	—	133-17
五月十一日献立	五月一日	—	—	折紙	1枚	—	133-18
(書状)	(近世)	—	ふち岡・かは嶋 ↓瀬山さま 人々	折紙	1枚	133-19 ~ 22まで重ねて一括。袖の一部破損。	133-19
(書状)	(近世)	—	永尾・牧野 ↓藤岡さま 川嶋さま 申し上げ候	折紙	1枚	133-19 ~ 22まで重ねて一括。	133-20
(書状)	(近世)	—	花さき 若かな ↓藤岡さま 川寫さま 御かたへ 貴	折紙	1枚	133-19 ~ 22まで重ねて一括。	133-21
(書状)	(近世)	—	高倉・杉うら・八十浦・善谷・花むら ↓藤岡さま 御返事 河寫さま 人々 御返事	折紙	1枚	133-19 ~ 22まで重ねて一括。	133-22
(書状)	(近世)	—	—	折紙	1枚	133-23 ~ 32迄一括。宛名・差出部分切除。	133-23
(書状)	(近世)	—	—	折紙	1枚	133-23 ~ 32迄一括。宛名・差出部分切除。	133-24
(書状)	(近世)	—	—	折紙	1枚	133-23 ~ 32迄一括。宛名・差出部分切除。	133-25
(書状)	(近世)	—	—	折紙	1枚	133-23 ~ 32迄一括。宛名・差出部分切除。	133-26
(書状)	(近世)	—	—	折紙	1枚	133-23 ~ 32迄一括。宛名・差出部分切除。	133-27
(書状)	(近世)	—	—	折紙	1枚	133-23 ~ 32迄一括。宛名・差出部分切除。	133-28
(書状)	(近世)	—	たつ ↓藤岡さま 川嶋さま 参御て元	折紙	1枚	133-23 ~ 32迄一括。	133-29
(書状)	(近世)	—	—	折紙	1枚	133-23 ~ 32迄一括。宛名・差出部分切除。	133-30
(書状)	(近世)	—	藤岡 河嶋 ↓唐橋さま 八十嶋さま 園浦さま 杉野さま もふし	折紙	1枚	133-23 ~ 32迄一括。133-31・32は重ねし織り込み。	133-31
(書状)	(天保三年)	一八三二	中河 花田 松浦 ↓御返事 藤岡さま 河嶋さま 御報	折紙	1枚	133-23 ~ 32迄一括。133-31・32は重ねし織り込み。	133-32
治宮様御入用帳	文政五年二月二〇日	一八三二	富小路家役所	横帳	1冊	光格天皇皇女。生母富小路明子(ひなりの)。文政5(21)生~7(5)没。	134-1
欽宮様御乳持御伽女中飯米札野菜銀受取帳	文政七年六月	一八二四	—	横帳	1冊	光格天皇皇女。欽宮泰子内親王(ゆきの)。文政7(5)生~天保13(17)没。	134-2
(連歌千句、同月廿一日自未刻至申時前満吟)	—	—	—	横半帳	1冊	賀茂季鷹の名あり。	134-3
治宮御凶事備忘	文政五年午七月	一八二二	—	横帳	1冊	—	134-5

表題	年月日	西暦	作成・差出↓宛名・受取	形態・記述法	数量	備考	史料番号
欽宮様御色直シ銘記	文政九年戊子二月	一八二六	富小路家	横帳	1冊		134-6
欽宮様御雑費料并御御乳持御控に茶代控	文政八年申七月極月同九年戌	一八二五	富小路家	横帳	1冊		134-7
互室喫茶集 卷之五	(近世後期)		富小路家	横帳	1冊	綴じ紐欠損。紙縫りで一括。	134-9
あらし山にあそぶ記	(近世後期)		富小路家	横帳	1冊	全体に朱入り。一部墨抹あり。	134-10
梅をめつる辞	(近世後期)		富小路家	横帳	1冊	汚損。全体に朱入り。	134-11
七月朔日夕御膳献立	七月一日		富小路家	横帳	1冊	綴じ紙縫り断裂。	134-12
治宮様御逗留女中以下飯米札野菜銀払印取帳	従文政五年午三月	一八二二	富小路家	横帳	1冊		134-13
右之写シ此方受取覚帳也	従文政五年午三月	一八二二	富小路家	横帳	1冊		134-13
十一月朔日献立	十一月一日		富小路家	横帳	1冊		134-14
欽宮様御膳御礼等候廻り候御料理記	文政四年酉正月元日	一八二二	富小路家	横帳	1冊		134-15
三本立御饗膳	(近世後期)		富小路家	横帳	1冊		134-16
三月廿日夕御膳献立	三月一日		富小路家	横帳	1冊	包み紙共。	134-17
十五日夕御膳献立	一月五日		富小路家	横帳	1冊		134-18
七月十四日夕御膳	七月一四日		富小路家	横帳	1冊		134-19
十二月十四日夕御膳献立	一月一四日		富小路家	横帳	1冊		134-20
禁裏女中衛門内侍局知行所并由緒	二月一四日		富小路家	横帳	1冊		134-21
逆流雪談(柔術指南書)			富小路家	横帳	1冊	被せ綴じの堅冊の表紙のみ。	134-22
小侍從殿御懐妊雜記	文政七申四月	一八二四	富小路家	横帳	1冊	虫損。	152
小侍從殿御安産御用帳	文政五年二月七日〜三月七日	一八二二	富小路家	横帳	1冊	合四冊、表紙に「三」と墨書あり。	153
勅撰名所和歌	寛文元年七月二日	一六六一	富小路家	横帳	1冊	宗碩編。奥に「心随庵御筆二書写畢」とあり。	154
(歌集)			富小路家	横帳	1冊	青片面二三行罫紙。奥に朱筆で高崎正風自筆の書き込み有り。	155
即時匿名(点取、十点宗昭上 十一清藤)	元治二年三月二八日	一八六五	富小路家	横帳	1冊	虫損。	156
小侍從殿御産御用帳	文政七年五月二三日より	一八二四	富小路家	横帳	1冊	表紙に「三巻」とあり。	157
寛裕院殿御葬送御列書	文政九戌年二月二日	一八二六	富小路家	横帳	1冊		158
欽宮様御色直御用記			富小路家	横帳	1冊		159
山何連歌			富小路家	横帳	1冊		160
(作詠用字引)			富小路家	横帳	1冊		161
小侍從殿御安産御用帳	文政五年午三月八日今御参院迄	一八二二	富小路家	横帳	1冊		162
宝鏡寺御事百々御所御由緒			富小路家	横帳	1冊	当時の欽宮は富小路貞直娘子侍従の所生。	163
欽宮御髪置御用帳	文政八年酉二月一四日	一八二五	富小路家	横帳	1冊		164
欽宮御逗留御記	文政九年四月	一八二六	富小路家	横帳	1冊		165
御譲位次第			富小路家	横帳	1冊		166
備忘録 四			富小路家	横帳	1冊		167
芳野之道乃記			富小路家	横帳	1冊		168
欽宮様御逗留の記	文政九年一〇月〇二日迄 同一〇亥年正月	一八二六	富小路家	横帳	1冊		169
小侍從殿御産御用帳	文政七年四月吉日今五月二二日迄	一八二四	富小路家	横帳	1冊		170

表題	年月日	西暦	作成・差出↓宛名・受取	形態・記述法	数量	備考	史料 番号
仙洞御所女中小侍従局由緒 (衛門内侍局由緒書)	文政元戊寅年六月	一八一八	小侍従殿里内 竹山正路④ ↓山科前大納言様御内 小林左馬允殿 松田兵庫殿 廣橋前大納言様御内 濱 路雅楽権助殿 藤堂刑部丞殿	豎冊崩(三丁)	1冊		175
雲井(慶應元年五月改)	文化二三丙子年四月	一八一六	衛門内侍殿里内 竹山正路④ ↓六條前大納言様御内 木村丈之進殿 渡邊右膳殿 山科前大納言様御内 小 林左馬少允殿 小野左衛門少尉殿	豎冊崩(二丁)	1冊		176
千蔭和歌論	寛政一二年七月	一八〇〇	千蔭	横半	1冊		198
桂園一枝	安政六己未年	一八五九	神楽岡生 宗昭	横半	1冊		199
詠草(明治八年秋ヨリ)	明治八年秋	一八七五	清盧	豎冊	1冊		200
詠草	文久二年	一八六二	鶯	豎冊	1冊		201
文久二年松園先生点 詠草	文久二年	一八六二	鶯	豎冊	1冊		202
(富小路貞直自筆短冊貼込手鑑)	貞直	折帖	折帖	豎冊	1冊	破損・裏表紙欠・剝離・虫損。 ※末尾に各短冊の題一覽を掲載した。	203
					1冊		204

※史料番号 203 (富小路貞直自筆短冊貼込手鑑) 各短冊の題一覽

初春鶴・庭前新柳・門前開鶯・早春川・朝雲雀・山路雉・岡前鶯・磯春風・谷巖・春野・橋邊梅花・車前梅散・車中見梅・春夜灯・橋邊春草・瀧邊梅花開・海上曉霞・山春曙・原上霞・遠尋花・摘若菜・山春雨・故郷梅・河上霞・山路雉・風前梅花・深山開鶯・堤花・野前鶯・野駒・深山春雨・寒香亭の梅を・原雀・霞隔海邊・海上春月・朝開鶯聲・社頭梅・春月幽・名所若菜・野外霞・隣家梅・柳風靜・庭前落梅・海上春月・樹間鶯・松上霞・遠山朝霞・磯若菜・故郷款冬・雨中青柳・原雲雀・松間花・草堂似露・川五月雨・岡邊虫・山蟬・月前虫・松虫惜秋・故郷牡丹・夕水鷄・花瓶朝顔・車中見蛩・草叢蛩・山家郭公・船中見蛩・首夏鳥・雨中芍藥・夜郭公・樵路五月雨・深夜郭公・独見蛩・常夏帶露・山家蚊遣火・蓮露・岡中扇・木曾山夕立・朝郭公・桂川夏月・堀邊女郎花・林開郭公・池上夏月・夏野月・禁園聞蟬・淀川夏月・夏夢・山路郭公・久愛翟麥・於船中見花火・送人草花・池蓮露・樹陰納涼・行路聞蟬・五月雨久・池花草蒲・川邊蛩・車中見月・涼風入簾・瀧邊夏草・瀧邊躑躅・竹風夜涼・沢邊女郎花・夏草露・雨後郭公・瀧邊納涼・行路夏草・初秋風・搗衣・寒閨月船・搗衣搗・荒川の鮎漁大水の爲にあしかりけれハ・軒萩・對月懷旧・水鳥遊鳴・利根川の鮎を賜けれハ(裏)・歸雁遙・河秋夕・雁聲遠近・山紅葉・秋夕霧・鹿聽何方・虫聲滿庭・池邊薄・野鴨・名所萩・霧中雁・深夜鹿・閑居虫・霧隔遠鳴・薄鹿風・雪間雁・山路霧深・古宅月・舟行夜已深・紅葉・鹿聲遙・閑秋夕・風前薄・秋雨・山鹿・田家夕雀・夕鹿・旅中雁・麓鹿・秋時雨・萩花移水・菊花秋夕・庭掃衣・野宿月・每秋雁來・月前雁・曉更照射・船中見月・独述懷・遙見野駒・深山風涼・樹陰燈籠・旅宿雨・枯野狐・雨中車・山家灯・田家夕雀・海上望舟・深夜夢・武田耕雲翁か墓にもうて、濱邊白鷺・故郷雨・河藻・漁舟火・旅宿夢(無題)・(無題)・古寺鐘・竹中雀・山家風・美人困碁・漁舟火・木曾川夜雨・田家烟細・樹間猿叫・深山瀧・白鷺江飛・海邊冬望・瀧辺水・窓前寒松・瀧邊初水・遠近炭竈・山家箱・遙望炭竈・澤水・故郷雪・殘菊帶霜・余寒月・曉天雁・車中落葉・故郷雪・故郷落葉・閑路千鳥・深山雪・連日鹿狩・行路雪・聞雪折・山木枯・岡邊鷺・芦間水鳥・禁中歲暮・田家寒草・浦千鳥・千鳥・川水鳥・炭竈・海邊冬月・渡冬月・湊千鳥・山家冬月・水滿池・水辺紅葉・故郷夏菊・向埋火見雪・寒月照氷・曉天埋火・閑路紅葉・冬夜霞・芦間鷺・埋火似春(剝離)・他筆・猿猴捉月

②近代

表題	年月日	西暦	作成・差出↓宛名・受取	形態・記述法	数量	備考	史料 番号
日本の貴族 西四月号	明治四二年四月二五日発行	一九〇九	発行所・日本の貴族社(東京市麹町區 紀尾井町六番地)	大和綴(座金 あり)	1冊		1
日本の貴族 西五月号	明治四二年五月二五日発行	一九〇九	発行所・日本の貴族社(東京市麹町區 紀尾井町六番地)	大和綴(座金 あり)	2冊	同内容二冊。	2
日本の貴族 西六月号	明治四二年六月二五日発行	一九〇九	発行所・日本の貴族社(東京市麹町區 紀尾井町六番地)	大和綴(座金 あり)	1冊		3
日本の貴族 西九月号	明治四二年九月二五日発行	一九〇九	発行所・日本の貴族社(東京市麹町區 紀尾井町六番地)	大和綴(座金 あり)	1冊	表紙にラベルの葉書あり。	4
日本の貴族 西十月号	明治四二年一〇月二五日発行	一九〇九	発行所・日本の貴族社(東京市麹町區 紀尾井町六番地)	大和綴(座金 あり)	1冊		5

表題	年月日	西暦	作成・差出↓宛名・受取	形態・記述法	数量	備考	史料 番号
日本の貴族 戊一月号	明治四三年一月一日発行	一九一〇	発行所…日本の貴族社(東京市麹町区紀尾井町六番地)	大和綴(座金あり)	1冊		6
日本の貴族 戊二月号第十二号	明治四三年二月一日発行	一九一〇	発行所…日本の貴族社(東京市麹町区紀尾井町六番地)	大和綴(座金あり)	1冊		7
日本の貴族 戊三月号第十三号	明治四三年三月一日発行	一九一〇	発行所…日本の貴族社(東京市麹町区紀尾井町六番地)	大和綴(座金あり)	1冊		8
日本の貴族 戊四月号第十四号	明治四三年四月一日発行	一九一〇	発行所…日本の貴族社(東京市麹町区紀尾井町六番地)	大和綴(座金あり)	1冊		9
近世末期ニ於ケル家禮門流・近世堂上家系略 図(一)藤原氏(二)諸氏	(近代)			孔版・ホチキス留(三紙)	1冊		10
法号帳	明治二七年六月	一八九四	富小路	堅冊(青片面一〇行罫紙)	1冊		12
葬儀諸事控(富小路絢子逝去につき)	大正九年六月	一九二〇	(富小路隆直)	堅紙「松印12」、青二四行罫紙	1冊		13
領収書(勲五等瑞宝章一個 故正三位富小路敬直分、明治二十二年勅令第三十八号の旨趣に基き還納、領収につき)	明治二六年五月二五日	一八九三	賞勳局物品会計主務属山本義敬 ↓子爵富小路準一郎後見人 子爵竹屋光昭和殿	大蔵省印刷局製造	1通	印刷。	14
所有第拾五銀行株式賣渡願(株式七拾五株家計上無拠都合にて同族中へ売り渡したく願ひの旨)	明治二五年二月三日	一八九二	富小路準一郎後見人 子爵竹屋光昭 ①、宗族 公爵九条道孝①、親類伯昭 大原重朝① ↓爵位局長公爵岩倉具定殿	状	1通	奥に朱筆で「第三拾三號 願之趣聞届ク 明治廿五年十二月六日 爵位局長公爵岩倉具定①」とあり。	15
所有第拾五銀行株式賣渡願(株式拾五株、本家富小路家計上無拠都合につき同族中へ売り渡したく願ひの旨)	明治二五年二月三日	一八九二	男爵相楽網①、宗族公爵九条道孝①、親族 子爵竹屋光昭① ↓爵位局長公爵岩倉具定殿	状	1通	奥に朱筆で「第三拾四號 願之趣聞届ク 明治廿五年十二月六日 爵位局長公爵岩倉具定①」とあり。	16
(新聞切抜・工場長の素顔 日本カーボン取締役横浜工場長 石川敏功)				新聞切抜き	1枚		23
(戒脈包紙)			①(玉窓禪寺)	包紙	1通		25
家紋(富小路藤・紋型紙)				紋型紙・ビニル製通帳封筒・紙封筒	1枚	ビニル製通帳封筒は西武信用金庫のもの。	29
富小路敬直詠進歌抄				堅冊(「貴春」青片面一〇行罫紙)	1冊	喜春は陛下御料。朱による添削があり、末尾に「歌数七十三首 撰抜 二十五首 内甲三首 乙八首 丙十四首」とあり。	31
点取(名所蛙・栽山吹・春山風・春遠情・巷)	明治八年四月一五日	一八七五	執筆 五首九点 康隆	堅冊・素紙	1冊	朱筆あり。末尾に「五首十点 通禱 五首九点 康隆」とあり。	32
点取(山初冬・雨後落葉・風前千鳥・田家烟・北畠親房)	明治八年一月二九日	一八七五	執筆 十二点 敬直	堅冊・素紙	1冊	朱筆あり。末尾に「十一通 通禱 十点 康隆 九点 公業 執筆十二点 敬直」とあり。	33
点取五題(故郷柳・難波海・春日野・畝傍山・大伴家持)	(明治)一〇年一月一八日	一八七七	執筆 十点 堀河康隆	堅冊・素紙	1冊	朱筆あり。末尾に「十点 東久世通禱 十五点 富小路敬直 九点 西四辻公業 八点 脇坂安斐 執筆 十点 堀河康隆」とあり。	35
点取五題(新樹防月・採早苗・水邊時鳥・佐用媛・裁松)	(明治)六月八日開卷		執筆通禱 十二点	堅紙・素紙	1枚	朱筆あり。末尾に「康隆 七点 公業十点 敬直 十六点 執筆 通禱 十二点」とあり。	36

表題	年月日	西暦	作成・差出↓宛名・受取	形態・記述法	数量	備考	史料 番号
五十首題 詠二百首 (敬直・通禱・康隆・公業点取)				豎冊・包装	1冊	背表紙包背表紙に「公業」の朱文丸印あり。	36
匡名 詠藻 (滝上蟬・行路夕立・河邊納涼)				豎冊・下綴じ	1冊	本綴じ用の穴四つあり。	37
詠藻			(富小路) 敬直	豎冊(宮内省)	1冊	表紙欄外に「国民ノ友 五十五号」とあり。	38
廿四年 賜題詠草	明治二十四年	一八九一	(富小路) 敬直	豎冊(宮内省)	1冊		39
(詠草)				赤二六行野紙	1冊		40
詠草	従明治一三年一月	一八八〇	清盧カ	豎冊(宮内省)	1冊	枠外に墨書による添削あり。	41
詠草	明治一八年	一八八五	(富小路) 敬直	豎冊(宮内省)	1冊		42
賜題			(富小路) 敬直	赤二〇行野紙	1冊		43
(詠草)				赤二六行野紙	1冊	欄外に添削あり。	44
(散文写本・ひととかたらふ事ありてある山陰の庵をとふこと有りり・・・)				豎冊(五紙)	1冊		49
(散文写本・ぬはたまのよはいとうさみたれぬるままたる月影の・・・)				豎冊(三紙)	1冊		50
明治二年巳七月旧地頭置居御歎願	明治二巳年七月	一八六九	摂州武庫郡守部村頭庄屋三右衛門◎ほか六七名、同州同郡武庫村庄屋善左衛門◎ほか四一名、同州同郡常吉村百姓弥左衛門◎ほか二名、同州島下郡奈良村庄屋喜平次◎ほか四名、和州土市郡豊田村庄屋與平次◎ほか三八名、同州同郡中村庄屋長次郎◎ほか三五名、同州同郡新木村頭庄屋三左衛門◎ほか一三名、同州同郡西宮村庄屋長兵衛◎ほか六名、右七ヶ村惣代守部村年寄佐右衛門◎ほか三名 ↓民部省庁跡司御役所	豎冊	1冊		51
改名願 (宗家富小路家にて多用の直の字を用い、綱直(ツナナオ)と改名を願う旨)	明治二八年一月一五日	一八九五	正五位男爵相樂綱◎ ↓宮内大臣伯爵土方久元殿	状	1通	奥に朱筆で「願ノ趣聞届ク 明治廿八年十一月十六日 宮内大臣伯爵土方久元◎」とあり。	52
宗秩寮達第七號 (大正三年一月七日貴族院子爵議員補選の証書が発せられたるにつき、補選選挙人名簿別冊調製配布の旨)	大正三年一月二四日	一九一四	宗秩寮総裁候爵久我通久 ↓子爵	状・封筒共	1通	封筒表「東京下谷上野櫻木町二九 子爵富小路隆直殿」封筒裏「宗秩寮 宮内省」市内特別・消毒済の印あり。	53
(書状・賜物有之候間、来ル廿三日・廿四日ノ内(午前十時ヨリ正午十二時迄ノ内) 本寮へ御出頭可有之候也)	大正三年二月二日	一九一四	内蔵頭山崎四男六 ↓子爵富小路隆直殿	状・封筒共	1通	定型印刷文面に、日時差出宛名など墨書・押す印。封筒表「下谷区上野桜木町三十八 子爵富小路隆直殿 書留 丸之内〇七三四」封筒裏「内蔵頭山崎四男六 宮内省」。	54

表題	年月日	西暦	作成・差出↓宛名・受取	形態・記述法	数量	備考	史料番号
乙 受付大正三年十二月十四日第一二五九ノ三號 (大正三年十一月十九日附長野縣平民戸主鳥羽耕治妻ノ妹ふさよト婚姻願ノ件 右認許ス)	大正三年二月一日	一九一四	宮内大臣男爵波多野敬直 ^④ ↓子爵富小路隆直	「宮内省」黒一〇行罫紙・封筒共	1通	昭憲皇太后諒闇中につき、罫紙・大臣印ともに黒。封筒表「下谷区上野桜木町三十八 子爵富小路隆直殿 書留 丸之内〇七三四」、封筒裏「宗秩寮 宮内省」。	57-1
婚姻届(婚姻認許大正三年十二月十四日 婚姻届出大正四年四月十五日 右婚姻御届仕候也)	大正四年四月一日	一九一五	子爵富小路隆直 ^④ ↓宮内大臣男爵波多野敬直殿	状	2通	同文捺印済み2通。	57-2
(添状控・故正三位敬直客年十月廿八日瑞宝四等章進叙につき、同種下級の勲章還納につき)	明治二六年五月二五日	一八九三	子爵富小路準一郎後見人 子爵竹屋光昭 ↓賞勲局物品會計主務属 山本義敬殿	状・封筒共	1通	封筒表「牛込区神樂町二丁目十六番地竹屋光昭(ママ) 方子爵富小路準一郎殿」、封筒裏「賞勲局」。	55
①委任状写 (第十五国立銀行株式十五株売却に付)	明治二五年二月一日	一八九二	①相楽綱 ②富小路準一郎後見人 竹屋光昭 印	状・封筒共	2通	封筒表「株式売却書換代印委任状 本紙都合三枚内二枚富小路一枚相楽之分 廿五年十二月一日 具綱卿へ渡ス」。	56
所有第十五国立銀行株式賣渡願写(家計無拋都合にて七十五株同族中へ売り渡しの旨)	明治二五年二月三日	一八九二	富小路準一郎後見人子爵竹屋光昭、宗族 公爵九條道孝、親族 伯爵大原重朝 ↓爵位局長公爵岩倉具定殿	状・封筒共	1通	奥に「前書之通相違無之候也、明治廿五年十二月 富小路準一郎後見人 竹屋光昭印 第十五国立銀行御中」との書入あり。57-1、57-2とも「返却 株式書替爵位局指令書 二通在中」と墨書された封筒に収納。	57-1
所有第十五国立銀行株式賣渡願写(本家富小路家計無拋都合にて式拾五株同族中へ売り渡しの旨)	明治二五年二月三日	一八九二	男爵相楽綱、宗族 公爵九條道孝、親族 子爵竹屋光昭 ↓爵位局長公爵岩倉具定殿	状・封筒共	1通	奥に「前書之通相違無之候也、明治廿五年十二月 富小路準一郎後見人 竹屋光昭印 第十五国立銀行御中」との書入あり。57-1、57-2とも「返却 株式書替爵位局指令書 二通在中」と墨書された封筒に収納。	57-2
御請(金拾兩、裕定院殿御祠堂金として寄附に付、毎月永世忌日厚く供養の旨)	明治二年二月	一八六九	真如堂 松林院 ^④ ↓伏原愷姫様 御役人中	堅紙	1通	57-1の一連か。	58
(証用紙に本人記名調印持参の事)				切紙・破損	1通		59
(書状・別封転籍届出地へ御送付申上候處、符箋ノ通りニテ返送有之候ニ付至急現住地御届出ニ相成候様致し度、此段申進候也、尚、恩賜金ノ関係モ有之候ニ付、至急御申出被下度候)	二六日		宗秩寮 ↓富小路子爵殿	状・剥離	1通	58、59は一連か。	60
(封筒)	大正三年二月二六日	一九一四	宮内省宗秩寮 ↓京都市上京区河原町通新烏丸頭町百六十 子爵富小路隆直殿	封筒(カラ)	1通		61
(封筒)	大正三年二月二六日	一九一四	宮内省宗秩寮 ↓京都市上京区河原町通新烏丸頭町百六十 子爵富小路隆直殿	封筒(カラ)	1通		62
(封筒)			宮内省宗秩寮 ↓下谷区上野桜木町二九 子爵富小路隆直殿	封筒(カラ)	1通		63
(持戻郵便付箋)	(消印・不詳)		下谷郵便局集配人	封筒(カラ) 剥離付箋	1通	表に「富小路系図」とあり。 封筒などから剥離した持戻郵便付箋。 冊崩れか。無番で、表裏に手習いのある次城歌人の封筒あり。	64
廿四年 賜題詠草 月	明治二四年	一八九一	敬直	「宮内省」赤片面一三行罫紙	1通		65

表題	年月日	西暦	作成・差出↓宛名・受取	形態・記述法	数量	備考	史料 番号
委託証状(貴族院議員選挙会)	大正	—	子爵	状・指示符箋 剥離三枚・封筒共	1通	封筒表「宮内省 式部職 受付御中」封筒裏「下谷区上野桜木町三十八番地 富小路隆直」。	67
不参御届(所労に付天長節不参)	大正四年一〇月	一九一五	子爵富小路隆直 ↓式部長 伯爵戸田氏共殿	状・封筒共	1通	封筒表「宮内省 式部職 受付御中」封筒裏「下谷区上野桜木町三十八番地 富小路隆直」。	68
婚姻届(夫・子爵富小路隆直 妻・鳥羽ふさよ)	大正四年四月 日	一九一五	子爵富小路頼直 ^① (抹消) ↓宮内大臣男爵波多野敬直殿	状	2通	生年月日の無い物と加筆したものとあり、双方とも届出印を抹消している。 婚姻認可大正三年十二月十四日、婚姻届出大正四年四月十五日。	69
照会状(故従三位敬直客年瑞宝四等章進叙につき、同種下級の勲章を還納されたき旨)	明治二六年二月六日	一九九三	賞勳局物品会計主務属山本義敬 ^① ↓子爵富小路準一郎殿	「内閣」赤一三 行野紙	1通	虫損。	70
(華族の婚姻に關して注意)	明治三二年七月二日	一九九九	宮内大臣子爵田中光顯 ↓華族	状	1通		71
免許手形(第二百十五号 射撃用六角銃一挺 右免許商増田大次郎より買入差許の旨)	明治一三年一〇月二七日	一八八〇	東京警視本署 ^① ↓華族富小路敬直	状	1通	裏印あり。	72
上申書(華族富小路隆直の養母篤子の父は、卜半了諦、母は了諦の妻桂梅垣に相違なき旨)	明治三三年三月一日	一九〇〇	京都市上京区新烏丸通下切通上ル新烏丸頭町百九拾五番地 富小路隆直未成 年二付親権ヲ行フ母 富小路篤子 ↓上京区戸籍吏増田正殿	青片面一〇行 野紙	1通		74
覚(御本膳十人前ほかメ金五円四拾錢)	一月	—	京都下鴨相模屋多田宗助 ↓富小路様	切紙	1通	フケ。	76
御献立(一人前金五十錢明細)	明治二七年一〇月	一八九四	相模屋 ↓富小路様	統紙(三紙)	1通	剥離。	77
借家証(下谷区上野桜木町三十八番地所在木造瓦葺二階建一棟 建坪一四坪)	(大正三年六月一日)	一九一四	平民会社員 借家人 加治弥二郎 ^① 、 平民会社員 本澤甚蔵 ^① 、 ↓百瀬達太郎殿	状(印刷物書 き入れ)	1通	印紙剥離。	78
①授業料領収書(第一期〜第三期都合五十円領収の旨) ②運動會会費領収書(合計一円領収の旨)	大正四年五月一七日	一九一五	①東京帝国大学収入官吏 東京帝国大 学事務官 名兒耶六都 ^① ②東京帝国大学運動會 ^① ↓①②法科大学学生 富小路隆直	状・封筒共	2通	封筒表「下谷区上野桜木町三八 富小路隆直殿」封筒裏「東京帝国大学会計課(電話下谷七一)番(振替貯金 当座東京二一九〇〇番)」。	79
書状(先日の潤筆料として金五円拝受の旨)	一二月二三日	—	長莢カ ↓富小路殿	二色刷り便箋・ 封筒共	1通	封筒表「富小路敬直殿 敬復 長莢」。	81
(葬儀役配)	—	—	—	統紙(四紙)	1通		82
薩摩琵琶銘宴(宇多計)由来記(高祖父直直宴と命名し愛蔵の薩摩琵琶、明治十年の騒ぎにて軍火に焼けしを惜しみ、新たに作らせて命名の旨)	明治一七年四月	一八八四	敬直	統紙(二紙)	1通	全文朱筆・剥離。	83
書状(あや子様おかくれの悔み状)	大正九年六月二三日	一九二〇	菊池まさ彦 ↓御奥様	「秋田鉱油株式 会社」青一 行野紙・封筒 共	1通	封筒表「東京市外田畑六〇八 富小路房代様 親展」封筒裏「秋田縣南秋田郡上新城村道川マル宝、宝田石油株式会社 道川出張所 社宅 菊池マサ」。	84
(覚)膳棚大小二二〇〇錢他メ金四十六円九十錢済の旨	—	—	上京寺ノ内千本東入式丁目 宮川九次郎	統紙(三紙)	1通	剥離。	85
覚(明治二年東京行幸供奉日記一冊ほか鳥羽耕治殿へ貸した書類覚書)	—	—	鳥羽耕治	状・包紙共	1通	包紙表「鳥羽耕治様へ貸したる書類覚え書」。	86

	表題	年月日	西暦	作成・差出↓宛名・受取	形態・記述法	数量	備考	史料番号
	(書状・善道院様五十回忌法要志拝受につき、粗末ながら生花お供え願いたく手配の依頼)	八月八日	—	光昭 ↓富小路篤子殿	統紙(三紙)	1通	剥離。	87
	(書状・こたびこはぜが珍らしく御座候間御地にも御座候や存じ候はねどもちよつとお目にかける旨)	一月二〇日	—	さた子 ↓おかつさま	桜多色空刷統紙(三紙)	1通	剥離。	88
	(書状・長野県東筑摩郡本郷村の旧家にて県内屈指の資産、家格有る鳥羽耕治次男ふさこととの縁談の件につき)	四月八日	—	小出五郎 ↓富小路老御後室様	統紙(五紙)	1通	剥離。	89
	故敬直殿御三年二付御入費書	明治二十七年一〇月二八日	一八九四	↓富小路様 侍曹	封筒(カラ)	1通	剥離。封筒の表に墨書。	90
	(書状・流行病予防のため出席見合わせの旨)	一〇月一八日	—	↓富小路様 侍曹	封筒(カラ)	1通	剥離。	91
	(書状・存外の早足にて御帰東により、九・一〇日御催御流残念に付き、何卒明日催されたい旨)	八月八日	—	光瑩 ↓敬直閣下	統紙(二紙) 封筒共	1通	剥離。	92
	(書状・洋行中の岩倉具経并二俊子此の度帰朝に付き、拙愚妹と一寸面会致せたく存するも着港の日限異替につき悪しからず残念ながら今回はお断り申上げる旨)	九日	—	(封筒・大谷光瑩) ↓富小路敬直殿 親展	統紙(二紙) 封筒共	1通	剥離。	93
	(書状・「拝読、如貴翰残熱難凌候處、益御清康拜賀候、然ハト半了達家祿親類書類写御廻シ有之、落手イタシ候、縣廳より申立モ可有之候間、篤と可遂評議存候、先ハ御答迄緒余萬拜晤ニ譲り候、頓首」)	八月一九日	—	大隈重信 ↓富小路敬直殿	統紙(二紙)	1通	剥離。	94
	(書状・「四女節子 右今般 東宮御息所ニ御治定之旨御内意被仰出深畏入候、依テ及御内報候也」)	八月二六日	—	公爵九條道孝 ↓子爵富小路隆直殿	切紙(一紙) 封筒共	1通	剥離。	95
	英照皇太后写真(袴袴)	—	—	—	写真・台紙・包紙	1枚	包紙に「富小路隆直」と留書あり。	105
	富小路敬直写真(軍服)	—	—	—	写真	1枚	—	106
	写真(昭和十四年三月十五日研究会懇親會記念撮影)	昭和一四年三月一五日	一九三九	—	写真・保存筒共	1枚	人名対応表共。	107
	写真(議事堂内におけるパノラマ写真)	—	—	—	写真	1枚	桐箱付(蓋に箔押しで「軍艦大鯨進水記念」とあり)。	108
	猪口(軍艦大鯨進水式記念・染付鯨富士遠望図)	昭和八年一月一六日	一九三三	横須賀海軍工廠	磁器猪口	1口	口径5.3×高4.5(cm)。	109
	猪口(軍艦鈴谷進水記念・染付鈴谷川地図)	昭和九年一月二〇日	一九三四	横須賀海軍工廠	磁器猪口	1口	「中三南 富小路禎子」の手習い反故紙に梱包。	110
	磁盃(帝國議會議事堂竣工式記念・染付議事堂尖塔に富士遠望図)	—	—	辻惣謹製	磁盃	1枚	パラフィン紙・紙箱付。	111
	紫檀製六角鶴蒔絵螺鈿ボンニエール(昭和天皇御成婚)	大正一三年	一九二四	—	ボンニエール	1合	蓋破損。立ち上がり面欠損。	112
	勲四等旭日小綬章(本章)	—	—	—	勲章	1個	直徑5.2×高4.2(cm)。	113
	勲三等瑞宝章(本章)	—	—	—	勲章	1個	塗箱付(蓋に銀文字で勲四等旭日小綬章とあり)。	114

表題	年月日	西暦	作成・差出↓宛名・受取	形態・記述法	数量	備考	史料番号
勲記(叙勲三等瑞宝章)	昭和一七年五月二日	一九四二	④(大日本國璽) 賞勲局総裁瀨古保次 ↓勲四等富小路隆直	状	1通	シミ・汚損。	115
封筒	—	—	山内献 ↓富小路様 侍曹	封筒	1通	—	118
封筒(書留郵便)	大正三年二月三日	一九一四	〔京〕都市上京区新島丸通り〔相楽綱直通之上ル東入〕 〔東〕京市下谷區上野〔桜〕木町三十八番地〔富小路隆直様 大至急用〕	封筒	1通	切手一枚混入(3銭)。	119
改名御届綴(富小路準一郎、隆直と改名に付き)	明治二八年一月二日、二五日	一九九五	牛込区神楽町二丁目十六番地竹屋光昭方同居 子爵富小路準一郎 ↓東京市牛込区長佐伯惟馨殿	綴	1綴	—	120 (1-14)
Album ①伏原ヒデ子、②下半真教院様了啓氏祖父、③治直、④毅直、⑤次郎・稲言忠、⑥新川勝・高子・相楽綱直、⑦藤波富、⑧竹屋熊子、⑨福島せい、⑩敬直、⑪敬直、⑫毅直、⑬毅直、⑭伏原愷子、⑮伏原成子、⑯定子(直垂、引き立て烏帽子人物座像)、⑰治直・毅直、⑱山本瀧尾、⑳福島末光・竹屋光昭(写真なし)	—	—	—	革装・留金具 付き・面金	1冊	写真台紙裏に記載のあるものも散見されるが、アルバムからの引き出しに際して、破損が考えられるため保留。	121
明宮嘉仁親王写真(七歳二か月)	明治一九年一月二八日	一八八六	大蔵省印刷局製 ↓富小路敬直	台紙貼写真	1枚	裏面に「賜 富小路敬直 明治十九年十月廿八日 御年 七年二ヶ月」と墨書あり。檀紙の包紙あり。	122
皇太子嘉仁親王写真(明治二二年二月三日撮影)	明治二二年二月三〇日	一八八九	鈴木真一 横濱真砂町東京九段坂(台紙裏面の印刷)	台紙貼写真	1枚	裏面に「明治廿二年十二月三十日御撮影 大正天皇 御幼時」と墨書あり。檀紙の包紙あり。	123
(京都尚友会水無瀬宮行集合写真)	—	—	—	写真	1枚	台紙剥がし裏面に「1、6 京都尚友会水無瀬宮行」と鉛筆書あり。	126-1
(茨城県日立日立製作所集写真人名対照表)	—	—	—	写真	1枚	社団法人尚友俱樂部の罫紙あり。	126-2
(上ノ山温泉慰問団集合写真)	(昭和)一四年四月一八日	一九三九	—	罫紙	1枚	台紙剥がし裏面に「十四年四月十八日 慰問団 上ノ山温泉」と鉛筆あり。	126-3
(表..昭和五年名教陸上選手、裏..昭和四年名教陸上選手)	昭和四、五年	一九三四、 一九三五	—	写真	1枚	台紙2枚貼り。	126-4
(表..大正六年小出一家、裏..明治三十七年十二月 大津ニテ芙蓉クラブ)	明治三十七年二月・大正六年	一九〇四・ 一九一七	—	写真	1枚	台紙表裏2枚貼り。	126-5
(撮影場所等不詳集合写真人名対照表)	—	—	—	裏紙	1枚	小金井衣料店告裏紙。	126-6
(表..中学五年生眞葛ヶ原集合写真、裏..中学卒業写真)	明治三十七年五月二〇日	一九〇四	—	写真	1枚	台紙表裏2枚貼り。	126-7
(集合写真・人名対照表)	—	—	—	写真・罫紙	2枚	社団法人尚友俱樂部の罫紙あり。	126-8
(表..明治三十七年第九連隊後藤出征紀念、裏..大正四年相楽)	—	—	—	写真	1枚	台紙表裏2枚貼り。	126-9

表題	年月日	西暦	作成・差出↓宛名・受取	形態・記述法	数量	備考	史料番号
(表・中学三年生ポルト芙蓉クラブ記念京都眞葛ヶ原にて集合写真、裏・中学五年生ポルト優勝集合写真)	—	—	—	写真	1枚	台紙表裏2枚貼り。	126-10
(名教中学運動選手)	—	—	—	写真	1枚	台紙剥がし裏面に「14名教中学運動選手」と鉛筆書きあり。	126-11
(集合写真人名対照表ほか一括)	—	—	—	写真ほか	1束	表裏貼付4枚。	126-12
(表・中学一年生集合写真、裏・中学三年生)	—	—	—	写真	1枚	16枚。	126-13
(梅状・愛媛絢子殿養生叶わず逝去を悼み香資お受け取りくだされたき旨)	大正九年六月二五日	一九二〇	↓ 隆直様 ↓ 女吾	続紙・封筒共	1通	封筒表「東京市外山手線田畑六〇八 富小路隆直殿」、封筒裏「京都市市上京区油小路丸太町南入賀川女吾」。	134-4
(五十音順字引)	—	—	—	縦冊(青片面一〇行罫紙)	1冊	—	134-8
(父大岡忠貫逝去に際しての会葬御礼)	大正九年二月二一日	一九二〇	大岡忠量 ↓子爵富小路隆直殿	状・封筒共	1通	印刷。	135
(息女絢子様逝去御悔み。小為替同封お供え下されたき旨)	六月二八日	—	山本家家従 ↓富小路家御家扶御中	状・封筒共	1通	印刷。	136
四月朔日夕御膳献立	四月一日	—	—	折紙	1通	虫損。	137
七月十五日夕御膳献立	七月一五日	—	—	折紙	1通	虫損。	138
八月一日夕御膳献立	八月一日	—	—	折紙	1通	虫損。	139
(食器九種数量書き上げ)	—	—	—	折紙	1通	虫損。	140
十月朔日夕御膳献立	一〇月一日	—	—	折紙	1通	—	141
九月九日夕御膳献立	九月九日	—	—	折紙	1通	—	142
五月一日夕御膳献立	五月一日	—	—	折紙	1通	—	143
五月五日夕御膳献立	五月五日	—	—	折紙	1通	—	144
(祖母近衛光子逝去のおりの会葬御礼)	大正九年二月一八日	一九二〇	公爵近衛文磨 ↓子爵富小路隆直殿	状・封筒共	1通	印刷。	145
三日夕御膳献立	三日	—	—	折紙	1通	下賜時の檀紙の包紙共。	146
明治天皇御真影(鶏卵紙台紙貼・賜品)	—	—	—	写真	1枚	—	147
藻莉船(歌集)	—	—	柳風社員 清廉	縦冊(宮内省赤片面一三行罫紙)	1冊	—	148
點取二十首(七点通禱・九点敬直・六点公業・五点康隆)	明治八年七月七日	一八七五	—	縦冊	1冊	朱筆あり。	149
柳の露(歌集)	明治一五年	一八八二	清廉	縦冊(宮内省赤片面一三行罫紙)	1冊	—	150
東京百首	—	—	—	縦冊	1冊	—	151
明治天皇写真(明治六年洋装)	明治六年	一八七三	—	写真	1枚	ガラス入り桐箱入り。「上御所」と蓋裏内貼紙に墨書のある木胎緑漆塗菊花御紋章被せ箱に一括。桐箱破損。被せ蓋文庫の覆い紙に「上御写真」と墨書あり。萌黄の四つ組紐付き。	171-1
英照皇太后カ写真(袴姿)	—	—	—	写真	1枚	同上。類似の写真があるも、手の重ね・顔の向き・椅子が見えるなど相違あり。	171-2
覚帳	大正九年六月二三日	一九二〇	富小路家	横帳	1冊	蓋に牡丹紋の手文庫に一括。	172

表題	年月日	西暦	作成・差出↓宛名・受取	形態・記述法	数量	備考	史料 番号
電報通達紙(ツウセキニタヘズ コンヤタツ) (供物施主覚)	大正九年六月二〇日	一九二〇	↓タバタ六〇八 トミノコウヂ フサヨ	電報通達紙	1枚		173
(悔み状・絢子殿病死の御悔み)	大正九年六月二二日	一九二〇	牛込薬王寺町七十一 南光利 ↓府下瀧野川町田端六〇八 富小路隆直殿 同 ふさよ殿	葉書	1枚		174
(悔み状・御令嬢様御療養叶わず逝去の由慰傷の旨)	大正九年六月二四日	一九二〇	岡野間誠頓首 ↓富小路子爵様尊下	統紙・封筒共	1枚	封筒表「東京市外瀧の川田端六〇八 富小路隆直殿 御弔詞」封筒裏「六月廿四日 四谷塩町一丁目十七番地 岡野間誠」。	178
(名刺・三井物産株式会社 清水常吉)			清水常吉	名刺	1枚		179
(名刺・岡本宗治)			岡本宗治	名刺	1枚		180
(名刺・佐藤吉郎)			佐藤吉郎	名刺	1枚		181
電報通達紙(アヤコノシライタム)			トハ□□ ↓タハタ六〇八 トミノコウジシユウチヨク	電報通達紙	1枚		182
(葉書・この度の御不幸を御見舞いし、母の代筆にて申上げる旨)	大正九年六月三〇日	一九二〇	下谷区入谷町八四番地 平野吉三郎 ↓府下瀧野川大字田端六の八番地 富小路隆直様	葉書	1葉		183
諸入費控(逝去退院から葬儀まで)	(大正九年)	一九二〇		蜀紙(松印12) 青片面(二行)	1枚		184
真裕院殿葬儀 京都住宅引拂二関スル生産書	大正六年四月	一九一七	富小路家	横帳	1冊		185
勘定帳(絢子発病ヨリ葬儀終了迄)	大正九年六月二〇日	一九二〇	富小路	横帳	1冊		186
(会葬礼状・兄一義への弔詞の御礼)	大正九年二月	一九二〇	柳生基夫	葉書	1葉		187
(葉書・絢子様逝去御愁傷の由)	大正九年六月二五日	一九二〇	京都室町今出川 子爵持明院基哲 ↓東京府北豊豊嶋郡瀧ノ川町字田端六〇八	葉書	1葉		188
(名刺・子爵西大路吉光)			子爵 西大路吉光	名刺	1枚		189
(葉書・七日毎の御回向申すまでもなく、御参廟の折にはお立ち寄りくだされた気旨)			赤坂區青山南町 玉窓會 山志田普助 ↓府下瀧ノ川町字田端六〇八、富小路隆直殿	葉書	1葉		190
(悔み状・ご長女ご逝去落胆に絶えざる旨)	大正九年六月二八日	一九二〇	中堀幾太郎 京都市下鴨二九 ↓東京府田端六〇八子爵 富小路隆直様 執事御中	封書	1通		191
(会葬御礼・忌明け挨拶状)	大正九年七月二六日	一九二〇	富小路隆直 ↓竹屋熊子殿	切紙	1枚		192
(会葬御礼・忌明け挨拶状)	大正九年六月二二日	一九二〇	富小路隆直 (富小路隆直)	切紙	1枚		193
電報通達紙(アヤコヒメノゴエ□□ライタム)	大正九年六月二二日	一九二〇	マサ ↓タバタ六〇八トミノコウジフサヨ	電報通達紙	1枚		194
電報通達紙(ヒタンカギリナクオンナゲキナグサメンスベモナシ アア)	大正九年六月 日	一九二〇	マ ↓トウケイ一五五 フカタバタ六〇八 トミノコウジタカナホ	電報通達紙	1枚		195
随筆	明治三年	一八七〇	清廬	電報通達紙	1冊		196
(白紙)				被せ箱・紺平打紐付・木胎	1冊	和綴じ。	197
富小路藤紋入文箱				檀紙地青漆塗	1合	外面剥離甚・内貼り剥離甚。縦46.4×横21.1×高7.9 (cm)。	205

③ 現代

表題	年月日	西暦	作成・差出↓宛名・受取	形態・記述法	数量	備考	史料 番号
木製机上本立て	—	—	(石川みづカ)	木製	1合	側面に「愛」「ミツ」「日本 桜」「石川」とあり。縦21.5×横34.5×奥行18.3 (cm)。	206
弔詞(會員富小路隆直君の長逝を哀悼し茲に謹で弔詞を呈します)	昭和三二年二月二六日	一九五七	霞会館理事長細川護立	状(巻奉書)・封筒共	1通	封筒表「弔詞 霞会館理事長 細川護立」。	17
(書状・隆直逝去につき御悔み)	昭和三二年二月三日	一九五七	清 ↓禎子様御もとに	便箋(コクヨ一六行)・封筒共	1通		18
(書状・隆直逝去につき御悔み。同封金にて生花を供えられたき旨)	昭和三二年二月二五日	一九五七	長野縣松本市南源地二二〇五 清水彰 ↓富小路禎子様	書留封筒共	1通		19
(書状・隆直逝去につき御悔み。同封香典を供えられたき旨)	昭和三二年二月二五日	一九五七	有久博枝 ↓富小路禎子様	状・現金書留封筒共	1通		20
(書状・隆直逝去につき御悔み。九州の娘より心ばかりことづけにつき、同封の旨)(毎日新聞切抜・専門歌人へのぞむ)	昭和四四年四月七日	一九六九	三室戸文光 ↓富小路禎子様 川越すみ子 母 京極 ↓禎子様 深作光貞	便箋・封筒共	1通		21
(書簡・「透明界」の贈呈を受けたことへのお礼)	昭和五一年三月二八日	一九七六	御供平信 ↓富小路禎子様	キャンパスノート片	1通	欄外に「小倉市中井口字辻一〇〇九 旭ガラス第一辻ヶ丘荘十九」。	22
(葉書・新著「透明界」頂戴のお礼)	昭和五一年二月一八日	一九七六	清瀬市梅園 上田三四二 ↓杉並区成田東四一五一―一四 富小路禎子様	新聞切抜き	1枚		24
①家紋調査につきお願い ②(家紋調査への変身控・富小路藤・正紋と裏紋)	昭和五七年三月二七日	一九八二	諸家資料調査委員会 ↓富小路禎子様	便箋・封筒共	1通		26
①すみれ会のお知らせ(平成一二年四月六日木曜 霞会館にて) ②すみれ会番組(素話 仕舞)	平成一二年三月六日	二〇〇〇	①幹事島津 ②—	官製はがき	2通		27
社団法人尚友倶楽部創立二十五周年記念写真	昭和二九年九月二七日	一九五四	—	印刷・封筒共	2通		28
観世流免状(葛城舞囃子大和舞)	昭和四七年九月	一九七二	観世元正 二十五世(花押)(朱文鼎印) (白文方印・眞観) ↓富小路禎子様	洋紙・封筒共	2通	人名対照表と台紙共。「富小路隆直殿」と墨書の茶封筒入り、「東京都中野区昭和通3-42 中川写真館」。	30
観世流免状(半部能)	平成八年一二月	一九九六	観世清和二十六世(花押)(朱文鼎印) (朱文方印・眞観) ↓富小路禎子様	写真	1枚	「上」と墨書、「葛城 大和舞」の鉛筆書の包紙あり。	125
観世流免状(通小町雨夜之伝)	平成四年一二月	一九九二	観世清和二十六世(花押)(朱文鼎印) (朱文方印・眞観) ↓富小路禎子様	切紙・鳥の子「眞観」の型押しあり	1枚	「上」と墨書、「通小町 雨夜之伝」の鉛筆書の包紙あり。	129-1
観世流免状(小督 恐之舞)	平成三年一二月	一九九一	観世清和二十六世(花押)(朱文鼎印) (朱文方印・眞観) ↓富小路禎子様	切紙・鳥の子「観世宗家・同家車」の透かしあり	1枚	「上」と墨書、「恐之舞」の鉛筆書の包紙あり。	129-2
折紙・奉書	1枚						129-3
折紙・奉書	1枚						129-4

表題	年月日	西暦	作成・差出↓宛名・受取	形態・記述法	数量	備考	史料 番号
観世流免状 (舞囃子 拝留) (野宮 舞囃子)	昭和四八年二月	一九七三	観世元正 二十五世(花押) (朱文鼎印) ↓富小路禎子殿	切紙・鳥の子 「眞観」の型押 しあり	1枚	「上」と墨書、「野宮 拝留」の鉛筆書の包紙あり。	129-5
観世流免状 (花筐 能)	昭和五八年八月	一九八三	観世元正 二十五世(花押) (朱文鼎印) ↓富小路禎子殿	切紙・鳥の子 「観世宗家・同 家家紋十本矢 車」の透かし あり	1枚	「上」と墨書、「能 花筐」のペン書の包紙あり。	129-6
観世流免状 (松風 舞囃子 戯之舞) (松風 舞囃子)	昭和六〇年二月	一九八五	観世元正 二十五世(花押) (朱文鼎印) ↓富小路禎子殿	折紙・奉書	1枚	「上」と墨書、「松風 戯之舞」のペン書の包紙あり。	129-7
観世流免状 (熊坂 舞囃子 替之形) (熊坂 舞囃子)	昭和六三年二月	一九八八	観世元正 二十五世(花押) (朱文鼎印) ↓富小路禎子殿	折紙・奉書	1枚	「上」と墨書、「熊坂 替之形」のペン書の包紙あり。	129-8
観世流免状 (遊行柳 青柳之舞)	平成六年七月	一九九四	観世清和 二十六世(花押) (朱文鼎印) ↓富小路禎子殿	折紙・奉書	1枚	「上」と墨書、「遊行柳 青柳之舞」のペン書の包紙あり。	129-9
観世流免状 (井筒 能)	昭和六一年五月	一九八六	観世元正 二十五世(花押) (朱文鼎印) ↓富小路禎子殿	切紙・鳥の子 「観世宗家・同 家家紋十本矢 車」の透かし あり	1枚	「上」と墨書、「能 井筒」のペン書の包紙あり。	129-10
観世流免状 (砧 能)	平成三年五月	一九九一	観世清和 二十六世(花押) (朱文鼎印) ↓富小路禎子殿	切紙・鳥の子 「観世宗家・同 家家紋十本矢 車」の透かし あり	1枚	「上」と墨書、「能 砧」の鉛筆書の包紙あり。	129-11
観世流免状 (舞囃子 別習 乱)	昭和六三年六月	一九八八	観世元正 二十五世(花押) (朱文鼎印) ↓富小路禎子殿	切紙・鳥の子 「観世宗家・同 家家紋十本矢 車」の透かし あり	1枚	「上」と墨書、「乱舞」の鉛筆書の包紙あり。	130-1
観世流免状 (舞囃子 奥習 求塚)	昭和六二年一〇月	一九八七	観世元正 二十五世(花押) (朱文鼎印) ↓富小路禎子殿	切紙・鳥の子 「観世宗家・同 家家紋十本矢 車」の透かし あり	1枚	「上」と墨書、「舞囃子」のペン書の包紙あり。	130-2
観世流免状 (舞囃子 小習 砧)	昭和四六年二月	一九七二	観世元正 二十五世(花押) (朱文鼎印) ↓富小路禎子殿	切紙・鳥の子 「観世宗家・同 家家紋十本矢 車」の透かし あり	1枚	「上」と墨書、「砧 舞囃子」の鉛筆書の包紙あり。	130-3
観世流免状 (舞囃子 小習 弱法師 隅田川 景清 部戸)	昭和四一年一月	一九六六	観世元正 二十五世(花押) (朱文鼎印) ↓富小路禎子殿	切紙・鳥の子 「観世宗家・同 家家紋十本矢 車」の透かし あり	1枚	「上」と墨書、「弱法師 隅田川 景清 部戸」の鉛筆書の包紙あり。	130-4

	表題	年月日	西暦	作成・差出↓宛名・受取	形態・記述法	数量	備考	史料 番号
観世流免状 (舞囃子 中習 舞之五段物、舞之替之型)	観世流免状 (舞囃子 中習 舞之五段物、舞之替之型)	昭和三十九年四月	一九六四	観世元正 二十五世(花押) (朱文鼎印) ↓白文方印・眞観 ↓富小路禎子殿	切紙・鳥の子 「観世宗家・同家紋十本矢車」の透かしあり	1枚	「上」と墨書、「舞之五段物 舞之替之型」の鉛筆書の包紙あり。	1305
観世流免状 (舞囃子 奥習 遊行柳、当麻、定家、頼政)	観世流免状 (舞囃子 奥習 遊行柳、当麻、定家、頼政)	昭和五十九年一月	一九八四	観世元正 二十五世(花押) (朱文鼎印) ↓朱文方印・観世宗家 ↓富小路禎子殿	切紙・鳥の子 「観世宗家・同家紋十本矢車」の透かしあり	1枚	「上」と墨書、「遊行柳、当麻、定家、頼政 奥習 舞囃子」のペン書の包紙あり。	1306
観世流免状 (舞囃子 中習 紅葉狩、急之舞、善知鳥、翔、山姥ノ立廻り)	観世流免状 (舞囃子 中習 紅葉狩、急之舞、善知鳥、翔、山姥ノ立廻り)	昭和五十七年一二月	一九八二	観世元正 二十五世(花押) (朱文鼎印) ↓白文方印・眞観 ↓富小路禎子殿	折紙・奉書 切紙・鳥の子 「観世宗家・同家紋十本矢車」の透かしあり	1枚	「上」と墨書、「紅葉狩、鳥之舞、善知鳥、翔、山姥、立廻り、中習 舞囃子」のペン書の包紙あり。	1307
観世流免状 (舞囃子 中習 神楽 楽)	観世流免状 (舞囃子 中習 神楽 楽)	昭和三十五年一月	一九六〇	観世元正 二十五世(花押) (朱文鼎印) ↓白文方印・眞観 ↓富小路禎子殿	切紙・鳥の子 「観世宗家・同家紋十本矢車」の透かしあり	1枚	「上」と墨書、「神楽 楽」の鉛筆書の包紙あり。	1308
観世流免状 (舞囃子 初習)	観世流免状 (舞囃子 初習)	昭和三十一年二月	一九五六	観世元正 二十五世(花押) (朱文鼎印) ↓白文方印・眞観 ↓富小路禎子殿	切紙・鳥の子 「観世宗家・同家紋十本矢車」の透かしあり	1枚	「上」と墨書、「舞囃子、初習」の鉛筆書の包紙あり。「富小路殿」の墨書切紙あり。	1309
観世流免状 (恋重荷 謡)	観世流免状 (恋重荷 謡)	昭和五十九年一月	一九八四	観世元正 二十五世(花押) (朱文鼎印) ↓朱文方印・観世宗家 ↓富小路禎子殿	切紙・鳥の子 「観世宗家・同家紋十本矢車」の透かしあり	1枚	「上」と墨書、「恋重荷 謡」のペン書の包紙あり。	1311
観世流免状 (起請文 一曲)	観世流免状 (起請文 一曲)	昭和六〇年四月	一九八五	観世元正 二十五世(花押) (朱文鼎印) ↓朱文方印・観世宗家 ↓富小路禎子殿	切紙・鳥の子 「観世宗家・同家紋十本矢車」の透かしあり	1枚	「上」と墨書、「起請文 謡」60.9.5.受大先生最後の御免状」のペン書の包紙、「富小路禎子殿」とペン書きの切紙あり。	1312
観世流免状 (望月 謡)	観世流免状 (望月 謡)	昭和六二年七月	一九八七	観世元正 二十五世(花押) (朱文鼎印) ↓朱文方印・観世宗家 ↓富小路禎子殿	切紙・鳥の子 「観世宗家・同家紋十本矢車」の透かしあり	1枚	「上」と墨書、「望月 謡」のペン書の包紙あり。	1313
観世流免状 (願書 一曲)	観世流免状 (願書 一曲)	平成四年七月	一九九二	観世清和二十六世(花押) (朱文鼎印) ↓朱文方印・観世宗家 ↓富小路禎子殿	切紙・鳥の子 「観世宗家・同家紋十本矢車」の透かしあり	1枚	「上」と墨書、「願書」のペン書の包紙あり。	1314
観世流免状 (道成寺 謡)	観世流免状 (道成寺 謡)	昭和六〇年一二月	一九八五	観世元正 二十五世(花押) (朱文鼎印) ↓朱文方印・観世宗家 ↓富小路禎子殿	切紙・鳥の子 「観世宗家・同家紋十本矢車」の透かしあり	1枚	「道成寺 謡」のペン書の包紙あり。	1315

表題	年月日	西暦	作成・差出↓宛名・受取	形態・記述法	数量	備考	史料 番号
観世流免状(木賊 謡)	昭和五一年八月	一九七六	観世元正 二十五世(花押) (朱文鼎印) ↓富小路禎子殿	切紙・鳥の子 「観世宗家・同 家家紋十本矢 車」の透かし あり	1枚	「木賊 謡」の鉛筆書の包紙あり。	131-6
観世流免状(梅 謡)	平成元年七月	一九八九	観世左近 二十五世(花押) (朱文鼎印) ↓富小路禎子殿	切紙・鳥の子 「観世宗家・同 家家紋十本矢 車」の透かし あり	1枚	「梅 謡」の鉛筆書の包紙あり。	131-7
観世流免状(鸚鵡小町 謡)	平成三年一月	一九九一	観世清和二十六世(花押) (朱文鼎印) ↓富小路禎子殿	切紙・鳥の子 「観世宗家・同 家家紋十本矢 車」の透かし あり	1枚	「上」と墨書、「オオム小町」の鉛筆書の包紙あり。	131-8
観世流免状(石橋 謡)	昭和五〇年十二月	一九七五	観世元正 二十五世(花押) (朱文鼎印) ↓富小路禎子殿	切紙・鳥の子 「観世宗家・同 家家紋十本矢 車」の透かし あり	1枚	「上」と墨書、「石橋 謡」の鉛筆書の包紙、「富小路禎子様」とペン書きの切紙あり。	131-9
観世流免状(乱曲 上之巻)	昭和四九年九月	一九七四	観世元正 二十五世(花押) (朱文鼎印) ↓富小路禎子殿	切紙・鳥の子 「眞観」の型押 しあり	1枚	「上」と墨書、「乱曲 上」の鉛筆書の包紙。	131-10
観世流免状(卒塔婆小町 謡)	昭和四八年七月	一九七三	観世元正 二十五世(花押) (朱文鼎印) ↓富小路禎子殿	切紙・鳥の子 「観世宗家・同 家家紋十本矢 車」の透かし あり	1枚	「上」と墨書、「卒塔婆小町 謡」の鉛筆書の包紙あり。	131-11
観世流免状(求塚 謡)	昭和四五年一月	一九七〇	観世元正 二十五世(花押) (朱文鼎印) ↓富小路禎子殿	切紙・鳥の子 「観世宗家・同 家家紋十本矢 車」の透かし あり	1枚	「上」と墨書、「求塚 謡」の鉛筆書の包紙あり。	131-12
観世流免状(砧 謡)	昭和四〇年八月	一九六五	観世元正 二十五世(花押) (朱文鼎印) ↓富小路禎子殿	切紙・鳥の子 「観世宗家・同 家家紋十本矢 車」の透かし あり	1枚	「上」と墨書、「砧 謡」の鉛筆書の包紙あり。	131-13
観世流免状(勸進帳 一曲)	昭和四七年七月	一九七二	観世元正 二十五世(花押) (朱文鼎印) ↓富小路禎子殿	切紙・鳥の子 「眞観」の型押 しあり	1枚	「上」と墨書、「勸進帳」の鉛筆書の包紙。	131-14
観世流免状(九番 習謡)	昭和三二年四月	一九五七	観世元正 二十五世(花押) (朱文鼎印) ↓富小路禎子殿	切紙・鳥の子 「眞観」の型押 しあり	1枚	「上」と墨書、「九番」の鉛筆書の包紙。	131-15
観世流免状(準九番 習謡)	昭和三七七年五月	一九六二	観世元正 二十五世(花押) (朱文鼎印) ↓富小路禎子殿	奉書・切紙 しあり	1枚	「上」と墨書、「準九番」の鉛筆書の包紙。	131-16

岡部家史料目録 (台帳番号189-30)

解題

西山 直志

本史料群は、旧子爵岡部家旧蔵のものである。旧蔵者の岡部長忠氏とは、当館への桜駁会文庫の設立にご尽力頂き、加えて第三四回特別展「馬―その歴史と学習院」展(二〇一四年四〜六月)に御協力頂き、さらに同展の関連講座(第七三回史料館講座、同年五月一〇日)に元馬術部監督として御登壇を頂く、などの御縁があった。そして、二〇一五年二月に北白川宮永久王関係の史料(史料番号一・二、計三点)の寄贈を受け、次いで同年八月に学習院成績表等(史料番号三、計三〇点)の追加寄贈を受けた、総計三件三三点の史料群である。点数としては後者の方が多く、これらは長忠氏の祖父に当たる長景と、その妻・悦子に関わるものである。

岡部長景(一八八四―一九七〇)は、旧藩和田藩主岡部長職(ながと)の長男として明治一七年に生れた。明治三年(一八九〇)に学習院初等学科へ入学し、同中等学科・高等学科へと進学する。明治三八年に東京帝国大学法科大学に入り、明治四二年に卒業。外務省に入省し、英国在勤等を経て、大正一三年(一九二四)から文化事業部長を務める。この間、明治四五年に加藤高明の長女・悦子と結婚する。昭和四年(一九二九)に内大臣秘書官長となるが、翌年に貴族院議員に当選し、以後研究会の中心人物として活躍する。昭和一四年には国民精神総動員中央連盟事務局総長、同一八年には東条内閣の文部大臣を務めた。戦後、戦犯指名を受け巢鴨拘置所に拘留されたが不起訴となり、次いで公職追放を受ける。昭和二七年の追放解除後には、国立近代美術館長となるなど、文化事業の発展に力を尽くした。昭和四一年からは、尚友倶楽部の理事長を務めた。

岡部悦子(一八八八―一九四六)は、駐英大使・外務大臣・第二四代内

閣総理大臣などを歴任した加藤高明の長女として生れた。母は三菱の創始者である岩崎弥太郎の長女で、のちに岡部家に嫁いだ後も岩崎家とは良好な関係にあったという。本史料群にもあるように、悦子はお茶の水の女子高等師範学校を卒業した。その後、明治四一年(一九〇八)からは父・加藤の英国赴任に同道しロンドンでの生活を経験し、明治四五年の加藤の一時帰国に際して岡部長景と結婚した¹⁾。

岡部長景に関する研究は、尚友倶楽部より昭和三〜六年の日記が刊行されて以後本格化し、一定の蓄積がある²⁾。近年には、昭和二〇〜二一年の巢鴨時代の日記も刊行され、そこには回想録「観堂随話」と昭和二〇年末の悦子の日記も収められている。

関連史料の所在としては、国会図書館憲政資料室(岡部長景関係文書)が日記や演説草稿等を所蔵し、岸和田市立郷土資料館に自筆書跡等の遺品があるほか、尚友倶楽部が若干の史料を保管している。

史料の内容を簡単に紹介しておく、まず北白川宮永久王関係のものは、写真と冊子である。永久王は日中戦争中の昭和一五年(一九四〇)九月、内蒙古の張家口で軍参謀として演習中、飛行機事故で不慮の死を遂げた。この冊子は、その後作られた永久王の「御尊像」(昭和一八年完成)を護持する「晴雲近砲会」が、会員の高齢化に伴う解散を見据えて作成した記録である。

次に、史料群の大部分を占める成績表は、悦子に関わる女子高等師範学校付属尋常小学校の修業証書(史料番号三一―二五〜二八)以外は、全て長景の学習院学生時代のものである。当時の学習院は、初等学科六年、中等学科六年、高等学科三年の課程であり、長景は明治二三〜二九年に初等学

科、明治二九～三五年に中等学科、明治三五～三八年に高等学科に在籍していた。史料番号三一～一九は長景個人に関するものだが、史料番号三一〇～二四の成績表は、在籍する全員の成績が一覧表の形で掲載されているため、在籍者の年級関係が判明する。前出の回想録「観堂随話」には、学習院時代の思い出が語られているが、それによると同級で一番の親友は、同じく外交官から貴族院議員（のち第一三代理議長）となった徳川家正であったという。ほかにも本史料群から、長景の同級としては、有馬頼寧（のち第一次近衛内閣農相）、伊東二郎丸（のち貴族院議員）、杉村陽太郎（のち外交官）、広幡忠隆（のち侍従次長）、山内豊中（のち海軍少将、高松宮家別当）らの名前が見え、白樺派として有名な志賀直哉・武者小路実篤も同級ないし一学年下という関係にあった。なお、東条英機も初等学科三年級の時期には同級であり（史料番号三一～一一）、それが後年東条内閣の文部大臣に就任した一因とも言われている。

註

(1) 伊藤正徳編『加藤高明』（加藤伯伝記編纂委員会、一九二九年、のち原書房より復刊（一九七〇年））下巻七四八頁。なお悦子の結婚に関しては、奈良岡聰智「加藤高明と岩崎家 駐英時代を中心に」（『法学論叢』一六六巻六号、二〇一二年三月）二二一～二三五頁に詳細な経緯が記されている。

(2) 尚友倶楽部編『岡部長景日記』（柏書房、二〇〇三年）。

(3) 奈良岡聰智「岡部長景と戦前・戦中・戦後」（『創文』五二六、二〇〇九年十二月）。伊藤真希「子爵岡部長景の家庭教育」（『愛知淑徳大学現代社会研究科研究報告』七、二〇一一年）。奈良岡聰智「別荘」からみた近代日本政治（第一五回）岡部長景」（『公研』四九巻六号、二〇一一年六月）。兼田信一郎「白堅と岡部長景 ある中国人と華族政治家の「石鼓文」拓本をめぐる交流の背景」（『マテシス・ウニヴェルサリス』一三巻二号、二〇一二年三月）。

なお、広中一成ほか編著『鳥居観音所蔵水野梅暁写真集』（社会評論社、二〇一六年）には、対支文化事業を通じて水野梅暁と深い交

流のあった岡部の写真も多数掲載されている。

(4) 尚友倶楽部編『岡部長景東鴨日記』（芙蓉書房出版、二〇一五年）。

(5) 同前、二二三～二二八頁。

岡部家史料目録

表題	年月日	西暦	作成・差出↓宛名・受取	形態・記述法	数量	備考	史料番号
(写真) (北白川宮永久王)	—	—	現像先…スタジオオオザワ	写真	1点	額入り(KOKUYO市販品)。本紙14.5×10.0(cm)。刊行物からの複製か。	1-1
(写真) (北白川宮永久王)	—	—	現像先…スタジオオオザワ	写真	1枚	127×89(cm)。刊行物からの複製か。	1-2
御尊像を護持して(晴雲近砲会の記録)	(平成二年)	一九九九	(編纂委員)	冊子(B5版)、印刷	1冊	—	2
免状箱(木箱)	—	—	—	木箱	1箱	35.5×23.9×6.4(cm)。	3
毎週成績表(初等学科一年級 岡部長景)	(明治二四年カ)	一八九一	(学習院)	冊子、印刷	1冊	—	3-1
毎週成績表(初等学科二年級 岡部長景)	(明治二五年カ)	一八九二	(学習院)	冊子、印刷	1冊	—	3-2
毎週成績表(初等学科三年級 岡部長景)	(明治二六年カ)	一八九三	(学習院)	冊子、印刷	1冊	—	3-3
毎週成績表(初等学科四年級 岡部長景)	(明治二七年カ)	一八九四	(学習院)	冊子、印刷	1冊	—	3-4
毎週成績表(初等学科五年級 岡部長景)	(明治二八年カ)	一八九五	(学習院)	冊子、印刷	1冊	—	3-5
平常成績表(初等学科六年級 岡部長景)	(明治二九年カ)	一八九六	(学習院)	鉛筆	1冊	—	3-6
成績表(中等学科二年級乙 岡部長景)	(明治三一年カ)	一八九八	学習院	状、印刷・墨	1枚	—	3-7
成績表(中等学科三年級乙 岡部長景)	(明治三二年カ)	一八九九	学習院	状、印刷・墨	1枚	—	3-8
通信簿(高等学科一部三年級 岡部長景)	明治三七年九月、 明治三八年七月	一九〇四、 一九〇五	学習院	書、印刷・墨	1冊	—	3-9
乙 学習院初等学科学生学年成績表	明治三三年九月一日、 明治三四年七月一日	一八九〇、 一八九一	(学習院)	冊子、印刷	1冊	岡部長景は初等学科一年級在籍。	3-10
乙 学習院初等学科学生学年成績表	明治三四年九月一日、 明治三五年七月一日	一八九一、 一八九二	(学習院)	冊子、印刷	1冊	岡部長景は初等学科二年級在籍。	3-11
乙 学習院初等学科学生学年成績表	明治三五年九月一日、 明治三六年七月一日	一八九二、 一八九三	(学習院)	冊子、印刷	1冊	岡部長景は初等学科三年級在籍。	3-12
乙 学習院初等学科学生学年成績表	明治三六年九月一日、 明治三七年七月一日	一八九三、 一八九四	(学習院)	冊子、印刷	1冊	岡部長景は初等学科四年級在籍。	3-13
乙 学習院初等学科学生学年成績表	明治三七年九月一日、 明治三八年七月一日	一八九四、 一八九五	(学習院)	冊子、印刷	1冊	岡部長景は初等学科五年級在籍。	3-14
乙 学習院初等学科学生学年成績表	明治三八年九月一日、 明治三九年七月一日	一八九五、 一八九六	(学習院)	冊子、印刷	1冊	岡部長景は初等学科六年級在籍。	3-15
甲 学習院高等学科・中等学科・海軍予科学 生学年成績表	明治三九年九月一日、 明治四〇年七月一日	一八九六、 一八九七	(学習院)	冊子、印刷	1冊	岡部長景は中等学科一年級在籍。	3-16
甲 学習院高等学科・中等学科・海軍予科学 生学年成績表	明治四〇年九月、 明治四一年七月	一八九七、 一八九八	(学習院)	冊子、印刷	1冊	岡部長景は中等学科二年級在籍。	3-17
甲 学習院大学科・高等学科・中等学科学生 学年成績表	明治三二年七月	一八九八、 一八九九	(学習院)	冊子、印刷	1冊	岡部長景は中等学科三年級在籍。	3-18

表題	年月日	西暦	作成・差出↓宛名・受取	形態・記述法	数量	備考	史料 番号
甲学習院大学科・高等学科・中等学科学生 学年成績表	明治三二年九月 明治三三年七月	一八九九 一九〇〇	(学習院)	冊子、印刷	1冊	岡部長景は中等学科4年級在籍。	3-19
甲学習院大学科・高等学科・中等学科学生 学年成績表	明治三三年九月 明治三四年七月	一九〇〇 一九〇一	(学習院)	冊子、印刷	1冊	岡部長景は中等学科5年級在籍。	3-20
甲学習院大学科・高等学科・中等学科学生 学年成績表	明治三四年九月 明治三五年七月	一九〇一 一九〇二	(学習院)	冊子、印刷	1冊	岡部長景は中等学科6年級在籍。	3-21
学習院高等学科・中等学科学生学年成績表	明治三五年九月 明治三六年七月	一九〇二 一九〇三	(学習院)	冊子、印刷	1冊	岡部長景は高等学科1年級在籍。	3-22
学習院高等学科・中等学科学生学年成績表	明治三六年九月 明治三七年七月	一九〇三 一九〇四	(学習院)	冊子、印刷	1冊	岡部長景は高等学科2年級在籍。	3-23
学習院高等学科・中等学科学生学年成績表	明治三七年九月 明治三八年七月	一九〇四 一九〇五	(学習院)	冊子、印刷	1冊	岡部長景は高等学科3年級在籍。	3-24
修業証書(東京府土族加藤高明長女加藤 つ)(尋常小学校第一学年の課程を修業)	明治二九年三月二四日	一八九六	女子高等師範学校	状、印刷・墨	1枚		3-25
修業証書(東京府土族加藤高明長女加藤 つ)(尋常小学校第一学年の課程を修業)	明治三〇年三月二九日	一八九七	女子高等師範学校	状、印刷・墨	1枚		3-26
修業証書(東京府土族加藤高明長女加藤 つ)(尋常小学校第二学年の課程を修業)	明治三一年三月二九日	一八九八	女子高等師範学校	状、印刷・墨	1枚		3-27
修業証書(東京府土族加藤高明長女加藤 悦子)(高等小学校第一学年の課程を修業)	明治三三年三月	一九〇〇	女子高等師範学校	状、印刷・墨	1枚		3-28
身体検査表(岡部長景)	明治三三年九月一九日 明治三六年一二月七日	一八九〇 一九〇三	(学習院)	綴、印刷・墨	1綴 (13枚)		3-29
(袋、樟脳入れカ)				袋	2点	「明治四十三年」十一月八日」と墨書あり。	3-30

(採録者：西山直志)

稲垣家史料目録 (台帳番号 189-34)

解題

芳澤直之

本史料群は、旧子爵稲垣家旧蔵のものである。二〇一五年四月、現当主である稲垣長利氏より本史料群の存在を聞いた長谷川怜氏（学習院大学博士後期課程）によって、まず調査が進められた。その後尚友倶楽部よりの紹介を経て、同年七月に、計二一件の史料の当館への寄贈が決定した。その多くが長利氏の父・長賢に関わるものであるが、少数ながら、次兄・長映氏に関わるものも含まれる（史料番号五―四二・四三・四四、計三点）。

旧志摩鳥羽藩三万石の譜代大名であった稲垣家は明治一七（一八八四）年七月八日、華族令の制定に伴い、最後の藩主・長敬が当主のときに子爵に叙された^①。

稲垣長賢（一八八九―一九八二）は、長敬の養継嗣、長昌（奥平昌服の子）の長男として、明治二年七月一日、東京で生まれた。東京農業大学卒業後、農林省畜産試験場助手や山形県農林技手を務め、社団法人養鶏中央会技手、輸出鶏卵検査員・理事などを歴任した。昭和一五（一九四〇）に子爵を襲爵して稲垣家当主となった。昭和一七年には、農林省囑託となった後、翌年一月の貴族院補欠選挙で互選され議員となり（研究会所属）、貴族院が廃止される昭和二年五月まで務めた。戦後は全日本チャボ保存協会副会長や、社団法人日本養鶏協会顧問を務めた^②。そのため、養鶏の専門家としての著書も多い^③。

関連史料の所在としては、鳥羽藩稲垣家に関するものとして、鳥羽市立図書館および明治大学博物館が所蔵している。鳥羽市立図書館では、「特殊資料（郷土資料）」の中に「稲垣家史料」として分類され、二〇四点を

所蔵している^④。明治大学博物館では、「志摩国鳥羽藩稲垣家文書」を所蔵しており、全体として、近世中期から幕末にわたる^⑤。

史料の内容としては、戦国〜近世の写本や家譜、近代以降の稲垣家文書、稲垣長賢関係文書、そして長賢が収集した絵葉書などで構成されている。この内、近代以外の史料は鳥羽市立図書館へ追加寄贈された。当館寄贈分の近代以降の史料は、文献史料と画像資料に大別される。年代としては、明治から昭和戦前期、占領期と幅広いが、大多数が大正一〇年代から昭和一〇年代で構成されている。

まず文献史料としては、華族関連の刊行書籍（史料番号一〜四）、「宮内省関係」（ファイル、史料番号五）、「傷病将兵慰問貴族院議員団日程・貴族院代表鮮満皇軍慰問録」（ファイル、史料番号六）、「貴族院関係」（ファイル、史料番号七）、書籍・雑誌抜刷（史料番号八・一〇〜一二）に分類される。

その中でも特筆すべき史料は、三点のファイルである。このうち、昭和一八年（一九四三）五月の「傷病将兵慰問貴族院議員団日程・貴族院代表鮮満皇軍慰問録」については、長谷川怜氏による史料紹介・翻刻があるの^⑥で参照されたい。

「宮内省関係」ファイルは、宮内省から長賢宛の招待状が多数を占める。その後に送付された「参入証」と「心得書」と共に添付されており、「心得書」には、参内ルートから服装に至るまで事細かく記されている。昭和三年（一九二八）十一月一六日に明治神宮外苑で開催された東京府地方饗饌関連の史料には、「参入心得書」や「明治神宮外苑配置図」、「東京府地方饗饌場平面図」などが含まれている^⑦。また、「昭和十八年新年式御裳捧持

者心得」には、「当日防空警報発令中ト雖モ参集ノコト」とあり、米軍による空襲が本格化する前の様相を窺うことができる。

「貴族院関係」ファイルは、長賢の襲爵関係や貴族院議員当選の際の書類などで構成されている。特に、ルーズリーフに直接書き込まれた「貴族院議員当選記録」には、推薦団体である尚友会とのやり取りや選挙費、そして推薦のあいさつ回りなど詳細な情報が記載されている。また、尚友会幹事が発した投票手順の書類など、貴族院議員選挙の一端を窺える。

最後に図像資料としては、地図(史料番号一三)、スタンプ帳(史料番号九)、絵葉書ファイル(史料番号一五～二二)に分類される。このうち絵葉書については、別途目録を作成する予定である。なお、モノ資料として、宮内省の御門鑑(史料番号一四)も含まれている。

これらの史料は、稲垣長賢の足跡を復元できるだけでなく、大正後期から昭和戦前期における宮中行事の内容や貴族院の活動内容が窺える、貴重な史料群といえる。

註

(1) 維新史料編纂会編『現代華族譜要』(日本史籍協会、一九二九年)二五頁。

(2) 「稲垣長賢履歴」(資料番号六「傷病将兵慰問貴族院議員団日程・貴族院代表鮮滿皇軍慰問録」所収)。また、貴族院議員の履歴については、衆議院・参議院編『議會制度百年史―貴族院・参議院議員名鑑』(大蔵省印刷局、一九九〇年)三六頁に依った。

(3) 稲垣長賢「採算、採卵養鶏に対する抗生物質飼料の利用価値」(『鶏友』十五(十二)、一九五三年十二月)、稲垣長賢「副業として有利な採卵チャボ養鶏」(『鶏友』十三(七)、一九五二年七月)、など。

(4) 鳥羽市立図書館編『図書館要覧 平成二五年版』(同館、二〇一三年)七頁。

(5) 伊能秀明・久住真也「明治大学刑事博物館所蔵「志摩国鳥羽藩稲垣家文書」について」(『明治大学博物館研究報告』第五号、二〇〇〇年三月)。同報告書には目録も掲載されているので参照されたい。

(八―八六頁)。なお、同史料群は、明治大学博物館の前身にあたる刑事博物館が古書店を通じて購入したものであるが、詳しい入手経路は不明とのことである(七八頁)。

(6) 長谷川怜(史料紹介)稲垣長賢「貴族院代表鮮滿皇軍慰問団」日記(『学習院史学』第五十四号、二〇一六年三月)。

(7) こうした地方饗宴は昭和天皇の大礼の際に、全国各地にて開催された。

稲垣家史料目録

華族類別録	表題	年月日	西暦	作成・差出↓宛名・受取	形態・記述法	数量	備考	史料番号
華族名鑑	改訂 華族名鑑	明治一二年(発行カ)	一九七八	冊子	形態・記述法	1冊	表紙に「以活版換贈写」	1
教学聖訓	華族家庭録(昭和十一年十二月調)	明治三五年一〇月五日(発行)	一九〇二	編集者…秀英舎 発行所…秀英舎	和綴じ	1冊	稲垣家蔵書印あり、本文中に書き込みあり。	2
		昭和一〇年(発行カ)	一九三五	編集者…学習院	和綴じ	1冊	道後温泉ふなやの袋入り。	3
		昭和一二二年三月二〇日(発行)	一九三七	発行所…華族会館	書籍、印刷	1冊	稲垣家蔵書印あり、本文中に書き込みあり。	4
(宮内省関係ファイル)					ファイル	1冊	大正一昭和にかけての招待状などがルーズリーフに糊付けされファイルされている。史料が貼付されているのは二九ページ分。貼付順に目録を作成。	5
(招待状 饗宴招待)	皇太子裕仁親王殿下結婚婚儀後の饗宴招待	大正一三年五月二三日	一九二四	牧野伸顕(宮内大臣) ↓稲垣長賢	状、印刷・墨	1枚		5-1
(招待状)	来大正十四年一月五日新年会ニ付宮中ニ於テ酒饌下賜相成候	大正一三年一月二二〇日	一九二四	牧野伸顕(宮内大臣) ↓稲垣長賢	状、印刷・墨	1枚		5-2
(車馬特別置場)	本券ハ参内ノ節駈者運転手又ハ車夫ニ携持セシメ馬車自動車ハ御車寄人	大正一四年一月五日	一九二五		状、印刷	1枚		5-3
(招待状)	来十一日紀元節ニ付宮中ニ於テ酒饌下賜相成候	大正一五年二月二日	一九二六	一木喜徳郎(宮内大臣) ↓稲垣長賢	状、印刷・墨	1枚		5-4
(通知)	長男長賢子爵芝山孝豊長女順子ト婚姻願ノ件	大正一五年三月一日	一九二六	一木喜徳郎(宮内大臣) ↓稲垣長賢	青色罫紙	1枚		5-5
(車馬特別置場)	本券ハ参内ノ節駈者運転手又ハ車夫ニ携持セシメ馬車自動車ハ御車寄人	大正一四年二月一日	一九二五		状、印刷	1枚		5-6
(招待状)	来三十一日天長節祝日ニ付宮中ニ於テ酒饌下賜相成候	昭和元年一〇月二二日	一九二六	一木喜徳郎(宮内大臣) ↓稲垣長賢	状、印刷・墨	1枚	57の封筒カ。	5-7
(封筒)						1枚		5-8
(車馬特別置場)	本券ハ参内ノ節駈者運転手又ハ車夫ニ携持セシメ馬車自動車ハ御車寄人	大正一五年一〇月三一日	一九二六		状、印刷	1枚		5-9
(招待状)	来昭和三年一月五日新年宴会ニ付宮中ニ於テ酒饌下賜相成候	昭和二年一二月二〇日	一九二七	一木喜徳郎(宮内大臣) ↓稲垣長賢	状、印刷・墨	1枚		5-10
(招待状)	来十一日紀元節ニ付宮中ニ於テ酒饌下賜相成候	昭和三年二月二日	一九二八	一木喜徳郎(宮内大臣) ↓稲垣長賢	状、印刷・墨	1枚		5-11
地方饗饌御召状送付ノ件		昭和三年二月	一九二八	東京府	状、印刷	1枚		5-12
(招待状)	来十六日大饗第一日ノ儀行ハセラルルニ付	昭和三年一月一日	一九二八	一木喜徳郎(宮内大臣) ↓稲垣長賢	状、印刷・墨	1枚		5-13
(通知)	地方賜饌ニ付キテハ稟報ノ拔萃ヲ貴覧ニ供シ候	昭和三年一〇月一四日	一九二八	有位華族会 ↓(空欄)	状、印刷	1枚		5-14
参入心得書	(一月一六日東京府地方饗饌場(明治神宮外苑)へ参着のこと)				状、印刷	1枚		5-15
明治神宮外苑配置図					状、印刷	1枚		5-16
東京府地方饗饌場平面図					状、印刷	1枚		5-17

表題	年月日	西暦	作成・差出・宛名・受取	形態・記述法	数量	備考	史料 番号
(招待状 来ル十一月十六日大饗第一日ノ儀行ハセラルルニ付) 次第書	昭和三年一月一日	一九二八	平塚広義(東京府知事) ↓稲垣長賢	状、印刷・墨	1通		5-18
地方饗儀場参入證	昭和三年一月一日	一九二八		状、印刷・墨	1枚		5-19
自動車運轉手用駐車券				状、印刷・墨	1枚		5-20
(招待状 来昭和四年一月五日新年宴会ニ付宮中ニ於テ酒饌下賜相成候)	昭和三年二月二日	一九二八	一木喜徳郎(宮内大臣) ↓稲垣長賢	状、印刷・墨	1通		5-21
(宮中饗宴東溜ノ間案内図)	昭和三年二月二日	一九二八		状、印刷	1枚		5-22
(車馬特別置場 本券ハ参内ノ節駈者運轉手又ハ車夫ニ携持セシメ馬車自動車ハ御車寄人力車ハ東車寄ニ於テ下乗)	昭和三年二月一日	一九二八		状、印刷	1枚		5-23
(招待状 天皇皇后両陛下ノ命ヲ奉シ来ル十日宮中ニ於テ催サルル饗宴ニ招待ス)	昭和三年二月一日	一九二八	一木喜徳郎(宮内大臣) ↓稲垣長賢	状、印刷・墨	1通		5-24
(招待状 来十一月三日明治節ニ付宮中ニ於テ酒饌下賜相成候)	昭和四年一月二日	一九二九	一木喜徳郎(宮内大臣) ↓稲垣長賢	状、印刷・墨	1通		5-25
(新年宴會豊明殿案内図)	昭和四年	一九二九		状、印刷	1枚		5-26
(明治節賜饗豊明殿席案内図)	昭和四年	一九二九		状、印刷	1枚		5-27
(招待状 来二十九日天長節ニ付宮中ニ於テ酒饌下賜相成候)	昭和四年四月二日	一九二九	一木喜徳郎(宮内大臣) ↓稲垣長賢	状、印刷・墨	1通	封筒入り、心得貼付あり。	5-28
(駐車許可証 宮城正門ヲ入り東車寄ヨリ参内ノコト)	四月二日			状、印刷	1枚		5-29
(招待状 昭和五年一月五日新年宴会ニ付宮中ニ於テ酒饌下賜相成候)	昭和四年二月二日	一九二九	一木喜徳郎(宮内大臣) ↓稲垣長賢	状、印刷・墨	1通		5-30
(招待状 来十一日紀元節ニ付宮中ニ於テ酒饌下賜相成候)	昭和四年二月一日	一九二九	一木喜徳郎(宮内大臣) ↓稲垣長賢	状、印刷・墨	1通		5-31
(紀元節宴會会場案内図)	昭和四年	一九二九	(宮内省) ↓稲垣長賢	状、印刷	1枚		5-32
(駐車許可証 自動車乗用車ハ総テ宮城正門ヲ入り車寄ヨリ参内ノコト)	二月一日			状、印刷	1枚		5-33
(心得 公務又ハ病氣或ハ召状受領後旅行等ニテ当日参内致シ難キコトヲ予期シ得ル向ハ此召状ニ対スル御断書ヲ必ス来七日迄ニ式部職ヘ差出サルヘシ)				状、印刷	1枚	封筒と共に貼付。	5-34
(招待状 来昭和六年一月五日新年宴会ニ付宮中ニ於テ酒饌下賜相成候)	昭和五年二月二日	一九三〇	一木喜徳郎(宮内大臣) ↓稲垣長賢	状、印刷・墨	1通		5-35
(招待状 来昭和七年二月二日新年宴会ニ付宮中ニ於テ酒饌下賜相成候)	昭和七年二月二日	一九三二	一木喜徳郎(宮内大臣) ↓稲垣長賢	状、印刷・墨	1通		5-36
(新年宴會千種ノ間座席案内図)	昭和五年	一九三〇		状、印刷	1枚		5-37
(心得 服装大礼服)				状、印刷	1枚	封筒の添え書きカ。	5-38
(招待状 来昭和十二年一月五日新年宴会ニ付宮中ニ於テ酒饌下賜相成候)	昭和十一年二月二日	一九三六	松平恒雄(宮内大臣) ↓稲垣長賢	状、印刷・墨	1通		5-39
(封筒)			(宮内省) ↓稲垣長賢	封筒、墨書	1点	台紙(ルーズリーフ)に糊付けされているため、封筒内は確認できず。	5-40
							5-41

表題	年月日	西暦	作成・差出↓宛名・受取	形態・記述法	数量	備考	史料 番号
(通知) 来年新年拝賀ノ節御用有之一日午前八時式部職へ出頭可有之此段及通知候也)	昭和十七年二月二三日	一九四二	宗秩寮 ↓稲垣長映	「宮内省」赤色 用箋、印刷・ 墨書	1通		5-42
(通知) 昭和十八年新年拝賀ノ儀ニ御裳捧持御用相勤メラレ度候)	昭和十七年二月二日	一九四二	小笠原公共(宗秩寮総裁) ↓稲垣長映(長賢二男)	「宮内省」赤色 罫紙、印・墨 書	1通		5-43
(封筒)	—	—	小笠原公共(宗秩寮総裁) ↓稲垣長映(長賢二男)	封筒、墨書	1点		5-44
(婚姻願の件)	昭和十六年三月二七日	一九四一	松平恒雄(宮内大臣) ⊕ ↓稲垣長賢	「宮内省」青色 罫紙、墨書	1通	5-44と関連カ。	5-45
(招待状) 来ル昭和十一年一月五日新年宴会ニ付宮中ニ於テ酒饌下賜相成候)	昭和一〇年二月二〇日	一九三五	湯浅倉倉平(宮内大臣) ↓稲垣長賢	状、印刷・墨 書	1通	5-45と関連カ。	5-46
(心得) 参内ノ節別紙参内券必ス持参ノ事)	—	—	「宮内省」	状、印刷	1枚	5-46と関連カ。	5-47
(招待状) 来ル昭和十年一月五日新年宴会ニ付宮中ニ於テ酒饌下賜相成候)	昭和九年二月二〇日	一九三四	湯浅倉倉平(宮内大臣) ↓稲垣長賢	書、印刷・墨	1通		5-48
(心得) 当日午前十一時三十分拝賀ノタメ参内ノ事)	—	—	「宮内省」	状、印刷	1枚	5-48と関連カ。	5-49
(駐車許可証) 総テ宮城正門ヲ入り東車寄ヨリ参内ノコト)	一月五日	—	「宮内省」	状、印刷	1枚		5-50
(駐車許可証) 宮城正門ヲ入り東車寄ヨリ参内ノコト)	一月三日	—	「宮内省」	状、印刷	1枚		5-51
(新年宴会千種ノ間座席案内図)	昭和六年	一九三一	「宮内省」	状、印刷	1枚		5-52
(名札) 正五位稲垣長賢)	—	—	「宮内省」	状、印刷	1枚		5-53
(駐車案内状) 自動車乗用車ハ総テ宮城正門ヲ入り車寄ヨリ参内ノコト)	二月一〇日	—	「宮内省」	状、印刷	1枚		5-54
(心得) 参内ノ節別紙参内券必ス持参ノ事)	—	—	「宮内省」	状、印刷	1枚		5-55
(心得) 当日午前十一時三十分拝賀ノタメ参内ノ事)	—	—	「宮内省」	状、印刷	1枚		5-56
駐車券(此ノ券ハ退出ノ際必要ナルニ付携帯セラレタシ)	—	—	「宮内省」	状、印刷	1枚		5-57
(心得) 当日午前十一時ヨリ同十一時三十分迄ノ間ニ拝賀ノタメ参内ノ事)	—	—	「宮内省」	状、印刷	1枚		5-58
昭和十八年新年式御裳捧持者心得	昭和十八年	一九四三	「宮内省」	状、謄写版	1枚	5-59、64は、ファイル裏表紙見返しノポケットに入り。 5-60、64は、ファイル裏表紙見返しノポケットに厚紙に貼付。	5-59
昭和十八年新年式御裳捧持者(身長順)	昭和十八年	一九四三	「宮内省」	状、謄写版	1枚	5-60、64は、ファイル裏表紙見返しノポケットに厚紙に貼付。	5-60
(封筒) 新年宴会賜饌召状二付)	—	—	「宮内省」 ↓稲垣長賢	封筒、墨書	1点	5-60、64は、ファイル裏表紙見返しノポケットに入り。 「御断書」に関する心得貼付。	5-61
(封筒) 新年宴会賜饌召状二付)	—	—	「宮内省」 ↓稲垣長賢	封筒、墨書	1点	5-60、64は、ファイル裏表紙見返しノポケットに入り。 「御断書」に関する心得貼付。	5-62

表題	年月日	西暦	作成・差出↓宛名・受取	形態・記述法	数量	備考	史料 番号
(封筒) 新年宴會賜饌召状二付)	—	—	(宮内省) ↓稲垣長賢	封筒、墨書	1点	㊦㊧㊨は、ファイル裏表紙見返し のポケットに入り。 「御断書」に関する心得 貼付。	5-63
(封筒) 紀元節賜饌召状二付)	—	—	(宮内省) ↓稲垣長賢	封筒、墨書	1点	㊦㊧㊨は、ファイル裏表紙見 返し のポケットに入り。 「御断書」に関する心得 貼付。	5-64
(傷病將兵慰問貴族院議員団日程・貴族院代表 朝鮮滿皇軍慰問録(昭和一八年五月) ファイ ル)	—	—	—	ファイル	1冊	B5サイズのパンチファイル。コクヨの 赤色野紙を台紙代わりにしている。貼付 順に目録を作成。ステープラー除去、紙 綴じ。	6
(通知) 貴族院会計手続関係)	昭和一八年	一九四三	貴族院事務局会計係㊦ ↓稲垣長賢	状、印刷・墨書	1通	—	6-1
(送付状) 履歴書並ニ稅務書類御送り申上候)	昭和一八年一月一五日	一九四三	稲垣長賢(貴族院議員) ↓貴族院事務局	状、ペン書	1通	㊦の関連書類カ。	6-2
(稲垣長賢履歴書 草稿)	—	—	—	状、ペン書	1枚	㊦の関連書類カ。	6-3
(稲垣長賢履歴書 浄書)	—	—	—	赤色野紙、タ イプ、鉛筆	2枚	昭和一八年五月一七日以降は鉛筆書。	6-4
(傷病將兵慰問貴族院議員団日程送付に付)	昭和一九年二月一日	一九四四	戸谷忠雄(貴族院職員) ↓稲垣長賢(貴族院議員)	状、印刷・墨書	1枚	—	6-5
傷病將兵慰問貴族院議員団日程	—	—	—	書	1枚	—	6-6
(名簿) 傷病將兵慰問貴族院議員団日程(第 三班)	—	—	—	「貴族院」用箋、 印刷・鉛筆	1枚	—	6-7
(傷病將兵慰問貴族院議員団(第三班) 慰問 先一覽)	—	—	—	「大日本帝国」 用箋、印刷	1枚	—	6-8
(通知) 内閣書記官長より通報に付)	昭和二二年九月六日	一九四六	小林次郎(貴族院書記官長) ↓稲垣長賢(貴族院議員)	「大日本帝国」 野紙、印刷	1通	—	6-9
内地陸軍傷病將兵慰問団打合事項	昭和一九年一月二七日	一九四四	—	「貴族院」用箋、 印刷・鉛筆	1枚	—	6-10
昭和十八年五月貴族院代表鮮滿皇軍慰問録	昭和一八年五月	一九四三	稲垣長賢	原稿用紙、ペ ン	1通	慰問団構成員、日程、現地に関するメモ。 原稿用紙53枚。	6-11
新京(観光案内パンフレット)	昭和一六年七月一〇日	一九四一	編集…福山治一 発行…奉天鉄道局旅客係 ↓稲垣 新京満蒙ホテル	冊子、印刷	1冊	—	6-12
受取証	五月二一日	一九四三	↓稲垣 新京満蒙ホテル	状、印刷・墨書	1枚	「満洲帝国収入印紙」貼付。	6-13
(領收証)	五月二二日	一九四三	—	筆、印刷・鉛	1枚	—	6-14
貴族院議員一行在新京日程表	昭和一八年	一九四三	—	状、印刷	1枚	—	6-15
(名刺) 大園長喜(興安北省公署次長)	—	—	—	状、印刷	1枚	—	6-16
(ラベル) トキワホテル)	—	—	—	状、印刷	1点	—	6-17
(荷札) 東京駅扱カ)	—	—	—	筆、印刷・鉛	1点	—	6-18
(荷札) ヤマトホテル)	—	—	—	書、印刷・墨	1点	—	6-19
(洗濯品注文書 ヤマトホテル)	昭和一八年五月二八日	一九四三	—	筆、印刷・鉛	1枚	—	6-20

旧華族家史料目録 I 稲垣家史料目録

表題	年月日	西暦	作成・差出↓宛名・受取	形態・記述法	数量	備考	史料 番号
(荷札 下関赤帽扱朝鮮行き) 貴族院議員一行皇軍慰問並視察旅行ニ関スル 件(参滿発第一七二二号) (ラベル 貴族院)	昭和十八年五月七日	一九四三	関東軍第四課長 ↓軍務課長	状、印刷・鉛筆	1点		6-21
(荷札 貴族院)	康徳		武部六蔵(総務長官) ↓稲垣長賢	状、印刷	1点		6-23
(招待状 午餐会)	新京市街図			状、印刷	1枚		6-24
(招待状 午餐会)	昭和十八年六月五日	一九四三	梅津美治郎(関東軍司令官・特命全權大使) ↓稲垣長賢(貴族院議員)	状、印刷・判子	1通	封筒貼付あり。	6-25
(日程)	昭和十八年	一九四三		「貴族院」赤色 罫紙、ペン	1枚		6-26
稲垣子爵貴族院議員御当選祝賀並に北支視察 談拝聴	昭和十八年一月二二日	一九四三		「日本砂糖協 会」原稿用紙、 ペン	1綴	原稿用紙八枚。鳥羽錦鋪蒲館に於いて開 催。	6-29
(貴族院代表鮮滿皇軍慰問日記)	昭和十八年五月一七〜六月 一四日(計二九日間)	一九四三	稲垣長賢	冊子、ペン	1冊	B6程度のノート、総ページ数は一四二 頁。巻末に「満洲国ノ畜産」が含まれて いる。	6-30
(貴族院関係ファイル)				ファイル	1冊	昭和期の貴族院関係の書類などがルーズ リーフに糊付けされファイルされている。 史料が貼付されているのは三ページ分。 貼付順に目録を作成。	7
稲垣長賢卒業証書	大正一三年三月二五日	一九二四	横井時敬(東京農業大学長) ↓稲垣長賢	状、墨書	1枚	大日本農会総裁守正王の署名あり。	7-1
(賞状 一等賞)	大正一三年三月二五日	一九二四	横井時敬(東京農業大学長) ↓稲垣長賢	状、墨書	1枚		7-2
(通知 本日從五位宣下相成候)	大正九年九月三〇日	一九二〇	井上勝之助(宗秩寮総裁) ↓稲垣長賢	赤色罫紙、印 刷・墨書	1通		7-3
(叙從五位)	大正九年九月三〇日	一九二〇	中村雄次郎(宮内大臣) ↓稲垣長賢	状、墨書	1枚		7-4
(通知 本日正五位宣下相成候)	(昭和) 一〇月二五日		仙石政敬(宗秩寮総裁) ↓稲垣長賢	「宮内省」赤色 罫紙、印刷、 墨書	1通	「年」は糊付けにより固定されているため、 判読不能。	7-5
(通知 拜謁被仰付天盃下賜相成候条参内可 有之候)	大正一四年二月二二日	一九二五	宮内省 ↓稲垣長賢	「宮内省」赤色 罫紙、墨書	1通		7-6
参内心得(著服ハ通常服ノ事)			宮内省 ↓(稲垣長賢カ)	状、印刷	1枚		7-7
(封筒)			宗秩寮 ↓稲垣長賢	封筒、印刷・ 墨書	1点		7-8
殯宮祇候参入券				状、印刷	1枚	裏面に注意事項記載。	7-8-1
祝詞(會員稲垣長賢君ノ襲爵ヲ慶賀シ茲ニ謹 テ祝詞ヲ呈ス)	昭和十六年一月一日	一九四一	鷹司信輔(華族会館長) ↓稲垣長賢	状、墨書	1枚	封筒貼付あり。	7-9
(臣長賢世襲ノ榮ヲ賜ヒ併セテ聖勅ノ辱キヲ 拜ス)	昭和十六年一月三日	一九四一	稲垣長賢 (空欄)	状、墨書	1枚		7-10

表題		年月日	西暦	作成・差出↓宛名・受取	形態・記述法	数量	備考	史料番号
(書式 キヤ押ス)	臣某世襲ノ榮ヲ賜ヒ併セテ聖勅ノ辱				形態・記述法	数量	備考	史料番号
(通知)	叙位相成候条参内可有之候	昭和十六年二月二六日	一九四一	宮内省 ↓稲垣長賢	状、印刷	1通	「」の草稿か。赤色野紙を台紙代わりに使用。	7-11
(封筒)				宮内省宗秩寮 ↓(空欄)	封筒、印刷	1点		7-13
(位記)	叙正五位	昭和五年一月一五日	一九三〇	一木喜徳郎(宮内大臣) ↓稲垣長賢	状、墨書	1枚		7-14
(位記)	叙従四位	昭和十六年二月一日	一九四一	松平恒雄(宮内大臣) ↓稲垣長賢	状、墨書	1枚		7-15
(襲爵被仰付)		昭和十五年二月二八日	一九四〇	宮内省 ↓稲垣長賢	状、墨書	1枚		7-16
貴族院議員当選記録		昭和十七年	一九四二	稲垣長賢	ルーズリーフ、 ペン	3枚	台紙代わりのルーズリーフに直接記載。	7-17
(通知)	尚友会ニ於テ開カレ候子爵議員二名 (坂谷希一・稲垣長賢)ノ補欠選挙候補者選 定(就テ)	昭和十七年二月二日	一九四二	尚友会幹事 ↓(稲垣長賢カ)	状、印刷	1通		7-18
(通知)	投票手續御承知ノ上御出席御投票被 成下度	昭和十七年二月二日	一九四二	青木信光(子爵選挙管理者) ↓(稲垣長賢カ)	状、印刷	1通	封筒貼付あり。	7-19
(通知)	左記ノ通り当選相成候	昭和十七年二月九日	一九四二	尚友会幹事 ↓(稲垣長賢カ)	状、印刷	1通		7-20
(宗秩寮達第四号 貴族院子爵議員補欠選挙 人名簿別冊ノ通調製配布ス)		昭和十七年二月二〇日	一九四二	武者小路公共(宗秩寮総裁) ↓(稲垣長賢カ)	状、印刷	1枚		7-21
(右貴族院子爵議員一名補欠選挙ノ為メ貴族 院伯子男爵議員選挙規程第二一条同第十五条ニ 依リ交付致候)		昭和十七年二月一〇日	一九四二	青木信光(子爵選挙管理者) ↓(空欄)	状、印刷	1枚		7-22
(当選証書 同爵者ノ投票ニ依リ貴族院議員 ニ当選シタルコトヲ証明ス)		昭和十八年一月九日	一九四三	青木信光(子爵選挙管理者) ↓稲垣長賢	状、墨書	1枚		7-23
(本日子爵議員補欠選挙に於て不肖等当選の 榮を得候は全く御高配之結果に因り候)		昭和十八年一月九日	一九四三	稲垣長賢・坂谷希一 ↓(空欄)	状、印刷	1枚	封筒貼付。封筒裏に「坂谷希一・稲垣長賢」 両名の署名あり。	7-24
乗車証		昭和二十二年三月一日	一九四七	社団法人 日本鉄道団团长	状、印刷・ペ ン	1枚	裏面に注意事項。	7-25
公衆傍聴券		昭和十六年二月一六日	一九四一	貴族院	状、印刷・ペ ン	1枚	裏面に「傍聴人心得」。	7-26
(札 貴族院)				貴族院	状、印刷	1点		7-27
(ラベル 貴族院)				貴族院	状、印刷	1点		7-28
(人資第七八号 連合国総司令部より頭書の 官職に任命又は留任することに異議がない旨 の回答を受けた)		昭和二十二年九月三日	一九四六	内閣書記官長 ↓貴族院書記官	赤色野紙、印 刷・墨書	1枚	稲垣の氏名部分は墨書。	7-29
貴族院議子爵議員補欠選挙人名簿		昭和十七年二月二〇日	一九四二	貴族院	冊子、印刷	1部		7-30
貴族院議子爵議員補欠選挙人名簿		昭和十七年二月一〇日	一九四二	貴族院	冊子、印刷	1部		7-31
(通知 今回貴族院議員ニ御就職相成候ニ付 テハ履歴書(二通)並写真(二葉)必要有之候)		昭和十八年一月九日	一九四三	貴族院事務局 ↓稲垣長賢	「貴族院」赤色 野紙、印刷・ 墨書	1通	日付と氏名部分のみ墨書あり。	7-32

旧華族家史料目録Ⅰ 稲垣家史料目録

表題	年月日	西暦	作成・差出↓宛名・受取	形態・記述法	数量	備考	史料 番号
第九〇回帝国議会 貴族院議員氏名表	昭和二十二年五月一六日	一九四六	貴族院	状、印刷	1枚	裏面に「第九十回帝国議会貴族院議員氏名表」とペン書きあり。他計算メモ多数あり。	733
第九〇回帝国議会 予算委員分科担当委員表	昭和二十二年八月三〇日現在	一九四六	貴族院	状、印刷	1枚	貴族院彙報附録。	734
(身分証明証)							
第八六回 帝国議会貴族院 請願委員会議事速記録第一号	昭和二〇年二月一日	一九四五	貴族院	状、印刷	1枚	封筒貼付あり。保護用シート付属。日英併記。	735
第八六回 帝国議会貴族院 請願委員会議事速記録第二号	昭和二〇年二月二日	一九四五	貴族院事務局	状、印刷	1部	736〜41は一括(ステープラー除去)。	736
第八六回 帝国議会貴族院 農地調整法中改正法律案特別委員会議事速記録第一号	昭和二〇年二月二日	一九四五	貴族院事務局	状、印刷	1部	736〜41は一括(ステープラー除去)。	737
第八六回 帝国議会貴族院 農地調整法中改正法律案特別委員会議事速記録第二号	昭和二〇年二月二七日	一九四五	貴族院事務局	状、印刷	1部	736〜41は一括(ステープラー除去)。	738
予算委員第五分科会議事速記録第一号	昭和二〇年二月五日	一九四五	貴族院事務局	状、印刷	1部	736〜41は一括(ステープラー除去)。	739
第八九回 帝国議会貴族院 農地調整法中改正法律案特別委員会議事速記録第三号	昭和二〇年二月一八日	一九四五	貴族院事務局	状、印刷	1部	736〜41は一括(ステープラー除去)。	740
第八九回 帝国議会貴族院 農地調整法中改正法律案特別委員会議事速記録第一号	昭和二〇年二月一六日	一九四五	貴族院事務局	状、印刷	1部	736〜41は一括(ステープラー除去)。	741
飛行機の切手	昭和四八年二月二五日発行	一九七三	著者…木村秀政 発行…丸ノ内出版	冊子、印刷	1冊	見開き四ページ分にわたり、切手五一点貼付あり。	8
(入場券・乗車券など台紙貼付一括)							
①「特急つばめ」、②「特急富士」、③「特急さくら」、④「特急富士(赤)」、⑤「特急つばめ みかど食堂」、⑥「みかど食堂(青)」、⑦「みかど食堂(赤)」			①〜④国鉄	状	1枚	①「特急つばめ」、②「特急富士」、③「特急さくら」は日付あり(昭和九〜十二年)。	91
①「紀元二千六百年電車優待乗車券」、②「紀元二千六百年バス優待乗車券」、③「紀元二千六百年 光」	昭和一五年	一九四〇	①〜②東京市電気局、③専売局	状	1枚	③「紀元二千六百年記念」の特印と記念切手貼付あり。	92
①「紀元二千六百年奉祝 東亜競技大会入場券(第一日)」、②「紀元二千六百年奉祝 東亜競技大会入場券(第四日)」	昭和一五年六月	一九四〇		状	2枚		93
「紀元二千六百年 朝日」	昭和一五年	一九四〇	専売局	状	1枚	「紀元二千六百年記念」の特印と記念切手貼付あり。	94
①航空五〇周年記念、②「航空博覧会」			①日本専売公社、②二子玉川園	状	1枚		95
①「東京駅舎と特急つばめ」、②「みかど食堂と特急つばめ」、③「晩食予約券」、④「みかど食堂(英語表記)」					1枚		96
「郷土志摩第四三三号抜刷別冊 稲垣家の系譜に就いて」	昭和四七年七月(発行)	一九七二	稲垣長賢	冊子、印刷	1冊		10
ブロッケン	昭和六一年三月二〇日(発行)	一九六八	鈴木弘一	冊子、印刷	1冊		11
笠信太郎、矢内原忠雄、森戸辰男、湯川秀樹、今中次磨、滝川幸辰、安倍能成、宮沢俊義	昭和三五年六月(発行)	一九六〇	NHK	冊子、印刷	1冊	書き込みあり。	12
「NHK特別番組 日本の政治に直言する」	明治一七年(測量)	一八八八	参謀本部陸軍部測量局	状、印刷	1枚		131
(地図) 北東部 浅草及下谷	明治二〇年八月二六日(出版)						

表題	年月日	西暦	作成・差出・宛名・受取	形態・記述法	数量	備考	史料 番号
(地図) 東部 深川及日本橋	明治一七年(測量) 明治二〇年八月二六日(出版)	一八八八	参謀本部陸軍部測量局	状、印刷	1枚		132
(地図) 南東部 石川島	明治一六年(測量) 明治二〇年八月二六日(出版)	一八八七	参謀本部陸軍部測量局	状、印刷	1枚		133
(地図) 北部 本郷及小石川	明治一六年(測量) 明治一九年八月二六日(出版)	一八八七	参謀本部陸軍部測量局	状、印刷	1枚		134
(地図) 中部 皇城	明治一六年(測量) 明治二〇年八月二六日(出版)	一八八七	参謀本部陸軍部測量局	状、印刷	1枚		135
(地図) 南部 築地並芝	明治一七年(測量) 明治二〇年八月二六日(出版)	一八八八	参謀本部陸軍部測量局	状、印刷	1枚		136
(地図) 北西部 牛込及び小石川	明治一六年(測量) 明治二〇年八月二六日(出版)	一八八七	参謀本部陸軍部測量局	状、印刷	1枚		137
(地図) 西部 麹町、四谷及赤坂	明治一七年(測量) 明治二〇年八月二六日(出版)	一八八八	参謀本部陸軍部測量局	状、印刷	1枚		138
(地図) 東京南西部 赤坂及麻布	明治一六年(測量) 明治二〇年八月二六日(出版)	一八八七	参謀本部陸軍部測量局	状、印刷	1枚		139
御門鑑	—	—	宮内省	木製	1点	五〇〇分の一 6.7 × 5.0 × 0.4(cm)。木箱入り(100 × 7.5 × 3.5 (cm))。蓋に葵御紋入り。蓋裏に「上野東照宮三百本祭記念」。	14
(絵葉書ファイル) ヒコキ(第一冊)	—	—	—	ファイル	1冊	五〇シート	15-1
(絵葉書ファイル) ヒコキ(第二冊)	—	—	—	ファイル	1冊	三〇シート	15-2
(絵葉書ファイル) ユニークカード	—	—	—	ファイル	1冊		16
(絵葉書ファイル) 記念切手・カード	—	—	—	ファイル	1冊		17
(絵葉書ファイル) 航空機・ハガキ	—	—	—	ファイル	1冊		18
(絵葉書ファイル) ダンスチケット	—	—	—	ファイル	1冊		19
(絵葉書ファイル) にわとりマーク	—	—	—	ファイル	1冊		20
(絵葉書ファイル) にわとり切手	—	—	—	ファイル	1冊		21

(採録者：芳澤直之)

木越家史料目録 (台帳番号 189-38)

解題

西山直志

本史料群は、旧男爵木越家旧蔵のものである。旧蔵者の木越安胤氏より霞会館を通じて寄贈の申し入れがあり、二〇一五年二月に寄贈を受けた。安胤氏の曾祖父・安綱、祖父・専八、父・安一、加えて母方の祖母・小川梅子に関わる、総計七四点の史料群である。

木越安綱(一八五四―一九三二)は、明治・大正時代の陸軍軍人(最終階級は陸軍中将)。陸軍士官学校を卒業後、明治一六年(一八八三)から三年間のドイツ留学を経て、日清戦争には第三師団(師団長は桂太郎)の参謀長として出征し、その後台湾総督府陸軍幕僚参謀長となる。次いで陸軍省軍務局長、歩兵第二三旅団長となり、日露戦争に出征する。明治四〇年に男爵を授爵し、第一師団長を経て、大正元年(一九一二)に第三次桂内閣の陸軍大臣となる。続く第一次山本内閣も留任するが、翌年辞任した。大正九年からは貴族院議員となった。金沢出身ではあるが、桂に見出された関係から長州系と見なされた。関連史料は管見の限り無く、その意味で本史料は貴重である。また、それゆえ研究状況も芳しくない。

安綱の長男・木越専八(一八八〇―一九四六)も陸軍軍人(最終階級は陸軍少将)、孫の木越安一(一九〇九―一九八七)も陸軍軍人である。安一は大学時代に東京帝国大学のピッチャーとして活躍し、昭和六年(一九三一)に初めて早稲田大学を破る原動力になったとい^①う。

安一の義母にあたる小川梅子(一八九二―一九八二)は、伊地知幸介の長女で、子爵小川武次に嫁いだ。小川家も、武次の父・又次が長州出身の陸軍軍人(最終階級は陸軍大将)で、日露戦争の軍功により子爵に陞爵し

た家系であった。そうした関係性から、娘の茂登子が木越安一に嫁いだと思われる。戦後、昭和二六年(一九五一)から女官となって宮内庁に奉職し、昭和四二〜四四年には女官長事務代理を務めた。

本史料群の内容は、その多くが写真である。特に、史料番号一のスクラップブックには、複製を含むものの、安綱の若い頃から晩年(葬儀を含む)に至る写真が、ほぼ時系列順に貼り付けられている。そのほか、昭和初期の木越家集合写真や、昭和戦中期にベルリンに滞在する安一を写したものもある(史料番号一八〜二三)。なお当時、安一は在外諜報機関員だったようで、昭和一九年(一九四四)には、終戦直前のソ連対日参戦の機密情報を送ったことでも有名な小野寺信スウェーデン公使館附武官の下で、補佐官としてストックホルム在勤であつた^②。

写真の他には、安綱が残した書類が若干存在する。日露戦争中の安東貞美宛書簡(史料番号一六〜一九)や、昭和五年(一九三〇)三月一日の陸軍記念日に昭和天皇へ対して行った日露戦争当時の状況についての「御前講演」の内容報告(史料番号一三八〜四〇)、などである。

これら木越家に関わる諸史料と性格を異にするのが、史料番号二五〜二七の三点である。これらは、小川梅子旧蔵のものと思われ、竹田宮昌子内親王の歌集と写真に加えて、貞明皇后崩御に伴って皇室から下賜された文庫がある。

註

(1) 『読売新聞』一九八七年二月八日、訃報欄。

(2) 岡部伸『諜報の神様』と呼ばれた男(PHP研究所、二〇一四年)。

木越家史料目録

表題	年月日	西暦	作成・差出↓宛名・受取	形態・記述法	数量	備考(法量の単位はcm)	史料 番号
(スクラップブック)	—	—	(木越家)	ファイル	1冊	以下、枝番号の資料は中の各頁に貼付けられている。 35.7×26.5×1.7	1
陸軍中将木越安綱(略伝)	(昭和時代)	—	—	コピー	4枚 併付	出典は松下方男『近代日本名将伝』(今日の問題社、一九四二年)カ。	1-1
(写真…ドイツ留学中の木越安綱)	明治一六年	一八八三	W. Hofert, Berlin	写真	1枚	14.2×9.7	1-2
(写真…ドイツ留学中の木越安綱)	明治一六年	一八八三	Edmund Risse, Berlin	写真	1枚	9.2×6.2	1-3
(写真…陸軍中佐の木越安綱)	明治一七年	一八九四	—	写真	1枚	9.0×6.0	1-4
(写真…第三師団参謀長の木越安綱)	明治三〇年	一八九七	中村牧陽(名古屋公演内)	写真	1枚	14.2×10.2	1-5
(写真…木越安綱)台湾総督府参謀長兼補給廠長	明治三一年	一八九八	竹林写真館(一番町)	写真	1枚	14.7×10.1	1-6
(写真…木越安綱、於台北)	明治三一年	一八九八	—	写真	1枚	14.7×10.7	1-7
(写真…藤椅子に掛ける木越安綱)	明治三二年	一八九九	—	写真	1枚	12.0×8.1	1-8
(写真…士官学校生徒の木越専八と学友)	明治三二年五月六日	一八九九	—	写真	1枚	写る学友の名前:千田登太郎・能村久次郎・清水他喜男・平野竹次・石里武雄・明石正・菊野三郎・岩倉正雄。 13.9×20.1	1-9
(写真…木越旅団の韓国京城発進)	明治三七年三月七日	一九〇四	—	写真(複写)	1枚	11.3×15.6	1-10
(写真…日露戦争出征時の木越専八)	明治三七年三月四日	一九〇四	広島陽明軒写真館	写真	1枚	裏面共、「安東様の御老母様ニ捧げ奉る」と書き込みあり。 9.1×6.0	1-11
(写真…日露戦争木越旅団奮戦の地)	(昭和二〜四年頃)	一九二七〜 一九二九	—	写真	1枚	満州駐屯中に木越専八撮影。 7.1×9.3	1-12
大村聯隊紅沙嶺激戦図	大正二年八月二六日	一九一三	高城荘吉	写真(複写)、 墨書	1枚	日露戦役での大村聯隊感状拝受十周年記念日を祝して作成寄贈。別に解説文あり。 17.1×27.3	1-13
(写真…日露戦争出征中の木越安綱、全身・立姿)	(明治三七〜三八年)	一九〇四〜 一九〇五	—	写真	1枚	13.7×9.7	1-14
(写真…日露戦争出征中の木越安綱、膝上・座姿)	(明治三七〜三八年)	一九〇四〜 一九〇五	—	写真	1枚	14.8×10.0	1-15
(軍事郵便封筒写し)	明治三八年二月五日	一九〇五	木越安綱(陸軍中将、第七師団) ↓安東貞美(陸軍中将、第四軍第十師団司令部)	コピー	2枚	19.9×8.0×2	1-16
(書簡文面写し)	明治三八年二月五日	一九〇五	木越安綱(陸軍中将、第七師団) ↓安東貞美(陸軍中将、第四軍第十師団司令部)	コピー	3枚	下部に翻刻文貼付け。 18.5×20.3	1-17
(軍事郵便封筒写し)	明治三八年八月一八日	一九〇五	木越安綱(陸軍中将、第七師団) ↓安東貞美(陸軍中将、第四軍第十師団司令部)	コピー	2枚	20.2×8.0×2	1-18
(書簡文面写し)	明治三八年八月一八日	一九〇五	木越安綱(陸軍中将、第七師団) ↓安東貞美(陸軍中将、第四軍第十師団司令部)	コピー	5枚	下部に翻刻文貼付け。 18.5×20.3	1-19

表題	年月日	西暦	作成・差出↓宛名・受取	形態・記述法	数量	備考(法量の単位はcm)	史料番号
奉天満州軍總司令部將校集合写真 (写真:於奉天寄せ書き)	明治三八年一〇月二四日	一九〇五	—	写真(複写)	1枚	約一五〇人が写る、別に人名対照図あり。	1-20
(写真:於奉天寄せ書き)	明治三八年一〇月二四日	一九〇五	—	写真(複写)	1枚	163 × 25.3	1-21
(写真:広島練兵場における日露戦争凱旋式)	明治三九年一月	一九〇六	—	写真	1枚	190 × 29.0	1-22
(写真:大礼服着用の木越安綱)	(明治三九年頃)	一九〇六	—	写真	1枚	192 × 13.0	1-23
(写真:元広島大本営舎前での陸軍將軍等集合)	(明治三九年頃)	一九〇六	—	写真	1枚	21.1 × 27.3	1-24
(写真:大礼服着用の木越安綱)	(明治四二年頃)	一九〇九	—	写真	1枚	135 × 9.1	1-25
(広島市外大須賀村の木越邸の地図カ)	—	—	—	コピー	1枚	明治三九〜四二年当時の状態を六二年後に図解したもの。地図上部を南とする。	1-26
(写真:日清戦争時の元広島大本営舎前、第六師団幹部集合)	明治四二年九月	一九〇九	—	写真	1枚	木越安綱は第五師団長から第六師団長に転任。 21.0 × 27.3	1-27
(写真:熊本第六師団長木越安綱と特命検閲使伏見宮貞愛親王大將・中村雄次郎中將)	(明治四三年頃)	一九一〇	—	写真	1枚	9.7 × 13.9	1-28
(日露戦争開戦時の仁川上陸記念日の朝鮮駐節師団長木越安綱の講演案文)	(明治四三年頃)	一九一〇	(木越安綱)	「陸軍」赤紙野紙、墨書	1枚	27.6 × 39.4	1-29
(明治四三年韓国臨時派遣第六師団長としての帰還の際に於ける上奏文案)	(明治四二年五月末以降)	一九〇九	(木越安綱)	「陸軍」赤紙野紙、墨書	2枚	韓国叛乱分子鎮圧のため明治四一年五月(同四二年五月)に派遣された陸軍第六師団の状況報告書。 27.6 × 39.4	1-30
(写真:明治天皇大喪時に陸軍統監部天幕での木越安綱第一師団長)	大正元年九月	一九一二	—	写真	1枚	9.8 × 12.4	1-31
(写真:大正元年二月二日第三次桂内閣陸軍大臣を拜命した木越安綱)	大正二年	一九一三	—	写真	1枚	21.0 × 27.2	1-32
(写真:大正元年九月)	大正二年	一九一三	—	写真	1枚	14.0 × 9.3	1-33
(写真:日米首脳晩餐会)	(大正二年頃)	一九一三	—	写真	1枚	22.2 × 27.2	1-34
(写真:大礼服着用の木越安綱)	(大正二年頃)	一九一三	—	写真	1枚	28.8 × 21.2	1-35
(写真:貴族院議員同僚と木越安綱)	大正九年	一九二〇	—	写真	1枚	18.7 × 26.4	1-36
(写真:伏見宮貞愛親王葬儀祭官長として神職姿の木越安綱)	(大正二二年カ)	一九二三	—	写真	1枚	21.3 × 13.7	1-37
御前講演 日露戦役当初(宣戦布告前)勝磯出発仁川上陸ノ経緯、鴨緑江戦闘、哈蟆塘追撃包囲	昭和五年三月一〇日	一九三〇	(木越安綱)	青色野紙、墨書	1枚	26.5 × 18.5	1-38
(講演速記) 三月十日陸軍記念日に於ける御前講演の要旨	昭和五年三月一日午前一時	一九三〇	木越安綱(男爵)	手書き謄写刷	11枚	貴族院公正会第五分科会席上にて。 26.5 × 18.6	1-39
(講演速記) 三月十日陸軍記念日に於ける御前講演の要旨(その二)	昭和五年四月九日午後一時半	一九三〇	木越安綱(男爵)	手書き謄写刷	12枚	昭和会館に於て。 26.5 × 18.7	1-40
(木越家系図)	(昭和末年頃カ)	—	—	無地紙、ペン	3枚	書込み多数あり。 35.0 × 25.0	1-41
(写真:晩年の木越安綱)	(昭和末年頃カ)	—	—	写真	1枚	9.2 × 6.4	1-42
(写真:晩年の木越安綱)	(昭和末年頃カ)	—	—	写真	1枚	15.1 × 10.9	1-43

表題	年月日	西暦	作成・差出↓宛名・受取	形態・記述法	数量	備考(法量の単位はcm)	史料番号
(新聞切抜・毎日新聞・小川梅子計報)	昭和五七年五月二日	一九八二	—	新聞切抜	1枚	小川梅子は木越安一夫人茂登子の実母。 6.5 × 8.0	144
(岡崎新平(木越安綱夫人遊喜の実家)系図)	(昭和六〇年頃カ)	—	(木越安一)	罫紙、ペン	1枚	23.0 × 14.0	145
(写真・木越遊喜肖像)	(明治一〇年代カ)	—	—	写真	1枚	21.0 × 18.0	146
(書簡・木越安一祖母「遊喜」につき母よりの聞き伝え)	(昭和六〇年頃カ) 一月三十一日	—	大野文夫 ↓木越安一	便箋、ペン	3枚	封筒あり。 21.0 × 18.0	147
(資料複写カラーネガフィルム)	(平成時代)	—	—	ネガカラー フィルム	19コマ	35mm ネガカラーフィルム	148
(写真・ドイツ留学中の木越安綱)	明治一六年	一八八三	—	写真(複写)	1枚	裏面に付箋「(一)明治十六年ドイツ留学中」 貼付け。 15.7 × 11.3	2
(写真・明治三〇年第三師団参謀長の木越安綱)	明治三〇年	一八九七	中村牧陽(名古屋公園内)	写真	1枚	裏面に書込み「明治三十年」「第三師団参謀長」 「明治三十年十月以降、陸軍省軍務局軍事課長、大佐」あり。 13.8 × 9.2	3
(写真・台湾総督府陸軍参謀長兼補給廠長の木越安綱)	明治三二年	一八九八	武林写真館(東京一番町)	写真(複写)	1枚	11.5 × 8.1	4
(写真・台湾総督府陸軍参謀長兼補給廠長の木越安綱)	明治三二年	一八九八	武林写真館(東京一番町)	写真(複写)	1枚	裏面に付箋「(三)明治三十一年、台湾総督府陸軍参謀長兼補給廠長」貼付け。 11.5 × 8.1	5
(写真・日露戦役出征中の木越安綱)	明治三八年頃	一九〇五	—	写真	1枚	裏面に書込み「木越安綱」「日露役出生中」あり。 13.7 × 9.1	6
(写真・日露戦役終戦の詔勅降受の日に奉天での寄せ書き)	明治三八年一〇月二四日	一九〇五	—	写真(複写)	1枚	裏面に付箋「(五)詔勅降受の日 38.10.24 奉天寄書、不破さんの所に全員写真」貼付け。 10.4 × 15.7	7
(写真・広島における木越安綱)	明治四二年頃	一九〇九	—	写真	1枚	裏面に書込み「広島に」あり。 28.5 × 23.0	8
(写真・熊本第六師団長木越安綱と特命検閲使伏見宮貞愛親王大将・中村雄次郎中将)	明治四三年頃	一九一〇	—	写真(複写)	1枚	裏面に付箋「四、熊本第六師団長、特命検閲使伏見宮貞愛親王大将中村雄次郎中将」貼付け。 11.3 × 15.7	9
(写真・大正元年一月二二日第三次桂内閣陸軍大臣を拝命した木越安綱)	大正二年	一九一三	—	写真(複写)	1枚	13.5 × 9.0	10
(写真・木越安綱の葬儀、堂内の仏壇・献花・参列者風景)	(昭和七年三月)	一九三二	M. HIROSE (TOKYO)	写真	3枚	21.2 × 27.4	11
(木越安綱作歌「自適庵に独居して」一首・詞書(20))	(昭和時代カ)	—	—	和紙・墨書	1枚	24.2 × 33.2	12
(韓国仁川上陸記念日に於ける講演案文)	明治四三年	一九一〇	(木越安綱)	コピー「陸軍」	1枚	木越安綱は朝鮮駐劄師団長。 25.8 × 36.3	13-1
(第六師団の韓国臨時派遣(明治四一年五月〜四三年五月)の情況報告案文)	(明治四三年)	一九一〇	(木越安綱)	罫紙・墨書	1綴	木越安綱は第六師団長。 25.8 × 36.3	13-2
(三月十日陸軍記念日に於ける御前講演の要旨(その一))	昭和五年四月九日午後一時半	一九三〇	木越安綱(男爵)	手書き孔版印刷	1綴	昭和会館に於いて。 25.8 × 36.3	14
(写真・晩年の木越安綱肖像)	(昭和初年頃カ)	—	—	写真	1枚	30.0 × 24.7	15

表題	年月日	西暦	作成・差出↓宛名・受取	形態・記述法	数量	備考(法量の単位はcm)	史料番号
〔平凡社刊「日本人名大事典」所載「木越安綱」の項目複写〕	(平成元年七月一〇日)	一九八九	—	コピー(B4)	1枚	人名対照表添付。前列中央に山階宮茂麿王・一戸兵衛学習院院長、第四列右から五人目に木越安一。	16
(写真：四谷学習院初等科校庭にて卒業記念)	大正一〇年三月	一九二二	(学習院初等科)	写真	1枚	木越専八は安綱の長男、安一は専八の長男。	17
(写真：木越家縁側にて安綱・専八・安一と婦人達)	(昭和二年頃)	一九二七	—	写真	1枚	66 × 88	18
(写真：麻雀で遊ぶ木越家家族)	(昭和二年頃)	一九二七	—	写真	1枚	93 × 76	19
(写真：木越茂登子・安胤・安興)	昭和一六年四月一日	一九四一	—	写真	1枚	茂登子は木越安一の妻、安胤・安興は子息。	20
(写真：ドイツ・ベルリンにて木越家家族)	昭和一六年五月一四日	一九四一	—	写真	1枚	85 × 70	21
(写真：ベルリンにて木越安一)	昭和一七年九月	一九四二	—	写真	1枚	裏面にベルリンの住所ペン書。 91 × 128	22
(写真：スケート場で友達となった子供達と一緒に、木越安一)	(昭和一六年頃)	一九四一	—	写真	1枚	121 × 84	23
(写真：木越安胤・安興)	昭和一八年二月二八日	一九四三	—	写真	1枚	下部破損。 87 × 100	24
松のしらべ上・下(竹田宮昌子内親王歌集)	昭和一八年三月八日	一九四三	竹田宮蔵版	和本・紐綴じ	2冊 (上冊87紙、 下冊90紙)	黄色無地木綿布に包まれ、琉球塗芭蕉模様文庫(史料番号25)に収納されていた。上冊の「はしがき」は北白川宮房子内親王、下冊の「あとがき」は竹田宮恒徳王の執筆。	25
(写真：竹田宮昌子内親王)	(昭和一五年頃)	一九四〇	—	写真	1枚	昌子内親王歌集『松のしらべ』上冊表紙裏に挿入されていた。 143 × 100	26
琉球塗芭蕉鶏模様文庫	—	—	—	木製朱漆塗重 ね蓋文庫	1合	総体朱漆塗の文庫。芭蕉と共に鶏二羽が描かれる。表面、特に角に漆の剥落箇所が多数あり。 貞明皇后崩御に伴い皇室より下賜された。皇后宮大夫坊城俊良より女官小川梅子宛の送り状(昭和二六年一〇月一日)が附属。 木製かぶせ蓋造りの共箱(蓋のみ、378 × 300 × 182)に納められている。共箱蓋表に「琉球塗芭蕉模様御文庫 一丁 蓋裏に「大正十五年四月高松宮琉球へ御成之節御持帰御献上 大正十五年五月」と墨書の貼り紙あり。 328 × 265 × 143	27

(採録者：岡田茂弘)